

第21号



実践女子大学

生活文化フォーラム

暮らしと支援

- I 生活文化フォーラム
国際ワークショップ
「音楽をととした自閉症スペクトラム障害児とのコミュニケーション(2)」
- II 公開市民講座
暮らしを楽しむ・暮らしを考える「社会の中で大人は支え合えるのか」
- III 学科の様子



I

生活文化フォーラム

国際ワークショップ報告

音楽をとおした 自閉症スペクトラム障害児との コミュニケーション(2)

—1日コース・ワークショップ：AQRを用いた関係の質のアセスメントと支援方法—

長崎 勤 本学生活文化学科 教授

* 実践女子大学・渋谷キャンパス創立120周年記念館・402教室
2016年5月8日(日) 10:00-16:00

<講師>

鈴木クプスキー園子 ドイツ・脳神経科アンブロック病院／音楽療法士

ゲルハルト・クプスキー ハンス・プリンツホルン精神科病院／音楽療法士

<プログラム>

10:00-11:30 【理論編】AQRとダニエル・スターンの自己発達コンセプト

11:40-13:00 【実践編1】アセスメントと支援方法の実際

13:45-15:30 【実践編2】ビデオ事例によるアセスメントと支援の演習

15:30-16:00 まとめとディスカッション

ワークショップ概要 2

ワークショップ報告 3

国際ワークショップ報告

音楽をとおした

自閉症スペクトラム障害児との

コミュニケーション(2)

— 日コース・ワークショップ：AQRを用いた関係の質のアセスメントと支援方法 —

本学生活文化学科 教授

長崎 勤



ワークショップ概要

音楽はリズム・テンポ・メロディーなどの要素により、豊かな感情を引き起こし、人間関係を築く重要な役割を果たします。新DSM-5[※]では自閉症児の「社会—情動の相互性 (social-emotional reciprocity)」やコミュニケーションの障害が示されていますが、音楽をとおして自閉症児のコミュニケーションと感情を育み、相互関係を築きあげるものの可能性が各国で検証されつつあります。

今回は、ドイツ・ボーフムから音楽療法士のクプスキエゴ夫妻をお迎えし、昨年来日・講演されたシューマツハー博士（ベルリン芸術大学）が開発された「音楽をとおした相互関係の質のアセスメントと支援ツール（AQR）（Schumacher & Calvet, 2007; Schumacher, Calvet & Reimer, 2011）」についての、一日コースのワークショップを開催しました。

AQRは、子どもとの相互関係の質を、①「身体と情動表現」、②「声と前言語的な表現」、③「楽器による表現」、の三つのスケールで示します。また、子どもだけでなくセラピストの

相互関係の質を、④「セラピストと介入の方法」のスケールでアセスメントします。そして、この四つのスケールの時系列的な変化を視覚的に表し、支援の計画を立てます。特に、数量化が困難な情動調整のちからのアセスメントと支援の手がかりを得ることができません。

はじめに、AQRの理論的背景であるダニエル・スターン(Daniel Stern, 1934-2012)の対人関係発達理論とアセスメント方法についての講義、また事例のビデオを見てのアセスメントと、それに基づく支援方針の策定の演習を行いました。

ワークショップ 報告

ワークショップは定員三十五名でしたが、応募希望者が多く、約七十名にご参加いただきました。参加者のほとんどが現場で働く先生方でした。

今回のワークショップは、二〇一五年九月に実践女子大学で行われた、ベルリン芸術大学のシューマッハー先生の国際講



演会を受けて、自閉症児との相互関係の質のアセスメントと支援についてさらに詳しく学びたいとの参加者からの要望で開催されたものです。

まず、鈴木クプスキー園子さん(ドイツ・脳神経科アンブロック病院/音楽療法士)と、ゲルハルト・クプスキーさん(ハンス・プリンツホルン精神科病院/音楽療法士)から、【理論編】として、発達心理学者のダニエル・スターンの自己発達コンセプトの考え方と、それに基づいて開発されたAQRのアセスメントの概要について説明がありました。

AQRは楽器による関わり(IQR)だけでなく、身体的・感情による関わり(PEQR)や、発声・前言語的かかわり(VQR)、また大人の関わり方(TQR)の観点で評価することが特徴です。

次に、実際の自閉症児とシューマッハー先生との関わりのビデオを観ながら、アセスメントの演習が行われました。

ビデオでは、自閉症児とシューマッハー先生のかかわりが、「モード0」というコンタクトのとれない状態や拒否の状態から、「モード2」では徐々に大人によって子どもの情動が調節される様子、「モード4」では相手の表情を伺う社会的参照といった行動が出現し、子どもに間主観性が芽生え、また大人もそのことが嬉しいと(主観的に)感じることができる様子、そして「モード5」では、協奏曲のように、他者と一対一でやりとりができる間活動性の様子、そして、「モード6」の情動の共有である間情動性へと至るプロセスが示されました。

※アメリカ精神医学会より刊行された「精神疾患の診断・統計マニュアル」の最新刊。初版のDSM-1は1952年に発表された。



これらのビデオによって、典型発達児では生後一〜二カ月で起こってしまう大人との情動共有(モード6)が、このように複雑な、またシステマティックなプロセスによっているのだということも、改めて理解することができました。文字だけでは分かりにくいこれらの行動の意味が、ビデオによって参加者の間で共有できたようでした。

ダニエル・スターンが晩年、キーワードの「Vitality affect(生気情動・喜怒哀楽などのカテゴリーに分けられない情動の流れ)」という用語を、「Vitality form (Stern, 2010)」へと置き換

えたことを、ワークショップの前の週に行われた日本発達心理学会第二十七回大会(二〇一六年四月二十九日、北海道大学)でのラウンドテーブルで青木紀久代先生(お茶の水女子大学)が解説されました。

身体的formによる関わりの重要性和意味が今回のビデオ演習でも確認られ、また、子どもと大人の情動のVitalityについて、リズム、テンポ、音圧といった

formによって表現することができる音楽の持つ独自性・メリックトも再認識できました。音楽という、人間の創り出した文化の素晴らしさが確認されました。また、学会と現場の実践が結びついた場でもありました。

十時〜十六時という長時間にわたり、子どものビデオを見て、アセスメントするというワークショップでしたが、皆さん熱心に参加され、質疑も多く出され、時間が足りないくらいでした。

音楽関係者だけでなく、幼児教育、特別支援教育関係者も多数参加されたワークショップでしたが、分野・領域を超えて、目に見えにくい子どもの「心の動き」を見る目を、大人が養うことが大事だと実感したといった感想を持たれた方々が多かったようです。人と人がかわる基本を学ぶことができる機会となったことを感謝したいと思います。遠く、はるばるドイツからお越し頂いたクプスキーご夫妻、また連休の最終日にもかかわらずご参加頂き、共に学ぶ場として頂いた参加者の皆様に感謝申し上げます。

【参考文献】

Schumacher, K. & Calvert, C. (2007). The <AQR-Instrument> -an observation instrument to assess the quality of relationship. In: T. Wosch, T. Wigram (Eds.), *Microanalysis in music therapy - Methods, techniques and application for clinicians, researchers, educators and students*. London: Kingsley.

Schumacher, K., Calvert, C. & Reiner, S. (2011). *Das EBQ-Instrument und seine entwicklungspsychologischen Grundlagen*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

Stern, D. N. (2010). *Forms of Vitality: Exploring Dynamic Experience in Psychology, the Arts, Psychotherapy, and Development*. USA: Oxford University Press.

II

公開市民講座

暮らしを楽しむ・暮らしを考える

社会の中で大人は支え合えるのか

* 生活文化学科 平成28年度 公開市民講座
平成28年11月18日 開催

講演①

身近な人の心の病のつき合い方…………… 6

塚原 拓馬 本学生活文化学科 准教授

講演②

女性の社会参加
～ 未来への希望と課題 ～ …………… 12

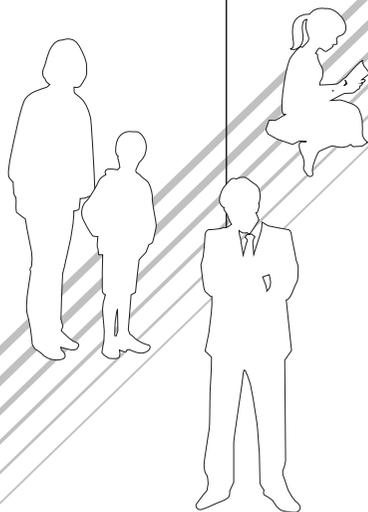
高橋 桂子 本学生活文化学科 教授

講演①

身近な人の心の病のつき合い方

本学生活文化学科 准教授

塚原 拓馬



塚原 今日、「身近な人の心の病のつき合い方」というテーマで、身近な方たちの心の病をどのように理解し、どのようにつき合っていくのかについてお話しさせて頂きたいと思います。これからお話しする三つのトピックとしては、今置かれた「社会の現状」、そして心の病に対しての「理解の仕方」、そして「つき合い方」、この三つを主にお話をしていきたいと思えます。

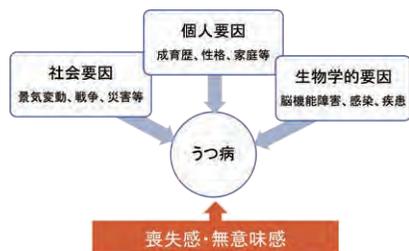
まず、「社会の現状」です。何よりも今の時代、心の病の代表として挙げられるのは「うつ病」です。昨今は過重労働問題とか、子育ての問題とか、多々あります。なぜ、うつ病が世の中でピックアップされているのか。いろいろな立場の人からいろいろな原因が言われておりますが、一つの原因だけでは説明

し切れていないというのが現状であると思います。日本では中高齢者に多いと思います。一〇代、二〇代の若年においてももちろんありますが、統計的な件数としては特に働き世代、子育て世代の三〇代から五〇代において多く見られています。

次に、「理解の仕方」です。例えば、遅刻、早退、欠勤が続くことです。日曜日の夜に「サザエさん症候群」というものが言われています。サザエさんとか、笑点が日曜日にあります。その頃になると明日また月曜日が始まるという心の重たさを感じてしまう状態です。そして、月曜日の朝になるとなかなか布団から出られない。そのようなことが続くのも一つのサインです。また、日常の会話が非常に乏しくなる。そして、服装

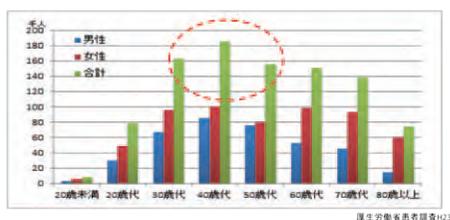


うつ病の現象理解



現状：成人期(生産期)とうつ病

- ◆ 生産期(30代～50代)に多く見られる
- ◆ 働き世代、子育て世代に見られる



が乱れたり、特にお風呂に入るのを嫌がり、日常の生活動作が面倒くさくなるのもうつ病のサインです。他にも、過剰な被害感であったり、無力感が心の中でどんどん膨らんでいく。そのような発言や会話が目立つようになる。つまり、日常の生活のリズムが崩れた時が一番注意のポイントどころになります。身近な方にそんな変化が見られた時には少し気遣ってあげることが、支え合う一つのポイントになると思います。

また、原因ですが、うつ病を解きほぐすといろいろなパターンが見られます。逆に言うといろいろな要因が絡み合って発生しているということが言えます。風邪を引いて、例えばインフルエンザに罹ると、ある薬を飲んで三日三晩、家で養生をします。大体、翌週には完全に回復をして、何事もなかったかのようになり学校や職場や日常生活に戻ることができると思います。ところが、うつ病はそうではないです。うつ病の薬は確かにあります。しかし、それを飲んでも翌週には元気にならないのです。うつ病というのは実は脳科学的な問題だけではなく、私たちの日常生活、社会生活、家庭生活の中で発生してきてしまう問題がかかわっているからです。

うつ病の原因は以前は、その人の性格がうつ病になるタイプだからとされてきました。真面目で几帳面で、融通が利かなくて責任感が強い。例えば、職場で真面目できちんと約束を守って責任感がある人。日本のサラリーマンの方たちに多いと思います。もちろんそういう責任感を持って仕事をしないと信用もされませんし、ある意味ビジネスの世界では必要なスキル

なのかもしれません。ところが、必要なスキルとは裏腹に、そのような特性を持つている人ほどうつ病になりやすいと言われるてきました。私たち日本人はそういう意味ではうつ病になりやすい性格特性を文化的な気質として持っているのかもしれない。電車が三分くらいおくれただけで、「この度はお待たせして申し訳ございません」とアナウンスがあります。日本人はすばらしいなと思います。海外に行くくと電車がおくられて、お詫びのアナウンスもないことは普通にあることですね。こんなに几帳面な文化はないと思います。

それから、社会変動要因です。一番は景気変動だと思えます。例えば九〇年代初頭のバブル全盛期には、会社や社会も今ほど「うつ病」には注目していなかったと思います。世の中が浮かれていた時にはよかったのかもしれませんが。経済的な問題は生活に直結しますので、そのような経済的変動というものがうつ病を増やしてしまうことは当然あると思います。

また、生活パターンです。うつ病は心の生活習慣病とも言われています。生活習慣が心に出るか、体に出るかの違いであって、元をただせばその人の積み上げてきた生活習慣が原因ではないかと理解されています。カウンセリングをして、個人要因、性格がすぐに変わるのはなかなか難しいので、何から変えていこうかという、その人の生活習慣を見直すことから取り組んでいきます。

もう少し具体的に社会生活に照らし合わせてお話をします。例えば、過密な日常生活、過労、パワハラやいじめの問題など

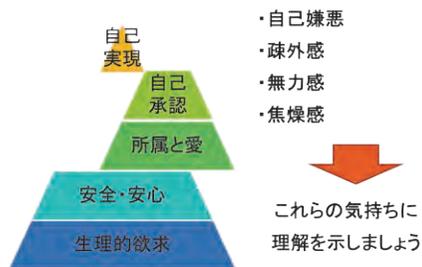
です。それから、人間関係、これはいつの時代でもあると思います。また、家庭的な問題です。例えば、ご家族に認知症を患っている方がいて、その方の介護にとっても追われていて、介護うつ病になる。それから、夫婦関係の問題、嫁姑の問題、子どもの養育の問題、そのような家庭的問題もうつ病のきっかけになり得ます。そして、人生の生き方です。その人の生き方の問題はうつ病の特性です。

さて、心理学の言葉を使って、別の視点から理解の仕方をご紹介したいと思います。これは心理学でよく使われる人の欲求の階層を表した図です。私たちの生きるためのエネルギー・欲求は階層に分かれています。まずは生きるために必要な生理的な欲求です。水を飲む、ご飯を食べる、生存のためにどうしたって必要なものです。これがないと、どうしても生きてはいけません。その次に出てくるのは安全な暮らしをする、自分の身を守る、そういう安全に対する欲求です。その次にどこかに所属をしたり、集団や仲間の中で暮らしていきたい、生活をしていきたい、愛する人と暮らしていきたいという、愛と所属の欲求があります。そして、暮らしている中での人との関係で自分の存在を認めてほしい、認められたいという、承認の欲求があります。そして、その中でみんなに認められる、受け入れられると、自分らしさを示したいという自己実現の欲求が出てくる。このような階層になるということが心理学では欲求段階階説として取り上げられています。

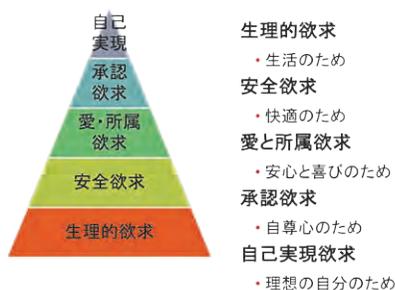
この階層どおりにスムーズに行けば、人はある程度満足して



理解と対応：つき合い方



理解と対応：原因



充実した日常生活を送れるのかもしれませんが。食べる物も着る物もあって、住む家もあって、そして安全で一緒に暮らす家族がいて、集団社会があったり、仕事があったりします。その中で周りの人からも自分の存在を認めて評価してもらえれば、ある程度幸せに暮らしていけるのかもしれませんが。

ところが、現代社会は不思議な状態にあります。よく言えば日本社会がそれだけ文化的に高まったと言いますか、日本社会は不況だ、不況だと言えども今の時代は食べる物も充分にあります。着る物はファストファッションで手軽に取り入れられますし、生きるための最低限のものは、途上国と比べればそんなに苦労をしなくても手に入るようになりました。ですから、本来最後に来るはずの欲求が先に来て、何とかして自分の存在を他者に認めさせようとか、認められるように、とにかく会社の中に入って自己実現をはかるようにプレッシャーをかけられています。本来基盤にあるべき生理的な欲求や安全欲求というものがおざりにされてしまっているのです。かなりやり手のビジネスマンがうつ病になったり、家事も全部こなして、子どもの世話もして、スーパーウーマンな方が突然うつ病になってしまうのも、現代の特徴だと思えます。それだけ今、世の中や社会が求めているものが逆転しているところがあり、だからこそうつ病は生活習慣病だと言われるのです。生活習慣、すなわち生理的な欲求や安全欲求をしっかりつくらず、足元が揺らいでいるような状態になっているのです。

では、最後に「つき合い方」です。まずはその人の生活習慣

なり、生活態度のささいな変化を見つけてあげましょう。気を配ってあげましょう。本来、当たり前前に行っていたことを当たり前前に日常生活の中でできなくなってきた。お風呂に入る、歯を磨く、朝起きたら普段着に着替えるとか、そのようなことができなくなってきた時は、少々揺らぎ始めているということですね。それから、自分の承認と言いますか、自分の存在が認められなくなってくる。いわゆる孤独感、疎外感です。そうしたところにも気を配っていくことが、うつ病の方たちに対するつき合い方です。

もう少し具体的にお話しします。やってはいけないことと、やっていいことを分けてお話をします。うつ病の方へのスタンダードNGとして、励ましが挙げられます。「今までできたのに何でできないの。」「もう少しと頑張りなさい。」そういう励まし、叱咤激励は御法度と言われています。むしろ承認が大切です。その人の存在を認めてあげるような言葉を使うということです。同じ「頑張ってほしい」というニュアンスを伝えたいならば、「頑張れ」と励ますのではなく、「頑張っているね」と認めてあげるようなことですね。ちょっとした違いです。「頑張れ」と励ますのと、「頑張っているね」と認めてあげること。言葉はほとんど変わらないですが、心がしんどい状態の方にとっては、少しの言葉の違いが大きな違いだったりします。

それから、変にアドバイスをしない。安易に「こうしたほうがいいですよ」というアドバイスは避けたほうがいいです。相手が何を求めているかが先にあって、自分が何を言ってあげる

かが先ではないです。視点をまず相手に持つておくということがうつ病に限らず、心に何か問題が起きている方に対してのつき合い方のファーストステップになります。

それから、これは特に男性社会ではありますが、飲みニケーションと称するお酒の席がよく設けられます。中高年の方にとっては飲みニケーションで何とかお互いの本音を話し合うというのがスタンダードだったみたいですが、お酒の席というのは逆にプレッシャーをかけてしまうことになりがちです。あまり無理矢理お酒の席とか、宴会の席などに連れ出さないことは大事なことです。

また、時間や選択を迫るということです。選択を迫るといえるのは実はプレッシャーでもありません。ここは私たち真面目な文化気質のある日本人には気を付けなければいけないところだと思えます。時間を守れ（守って当然だ）という、暗なる常識にとられないようにすることも大切です。

また、メールが返ってこないのも、逆に心配になってまたどんどん送ってしまう、というのもプレッシャーになります。一方で、何も連絡をとらないというのも、放っておかれたという疎外感を与えてしまうことになります。その頻度を考えながら連絡をとって頂ければと思います。

そして、沈黙を大事にしましょう。落ち込んでいる時は、自分が何を考えて何を感じているのか、意外に口では話せない、語れないものだったりすることがあります。無理に語らせない、話さないというのも一つの関わり方になります。



「うつ病に違いない」とレッテルを貼るのも気を付けましょう。診断は医師が行うものであって、医師以外の人が行うものではありません。実際の病名は何なのか、医学的な対応は何が必要か、これは医師にまず相談頂ければと思います。「くよくよするな、男らしくないぞ」とか、そういう伝統的な見方、言い方もプレッシャーになります。

最後です。「罪を憎んで人を憎まず」という言葉がありますが、「病気を憎んで人を憎まず」というのも大切です。「何で病気になるたの、あんたが悪いんだよ」という追及みたいな形にはならないように。うつ病という症状は解消したほうがいいけれど、その人を責め立てるようなことはなくしましょう。

今日はうつ病というものをモチーフにして、身近な人の心の病のつき合い方をご紹介します。皆さんの日常生活に少しでもお役に立てれば有難いと思います。ご静聴ありがとうございました。

講演②

女性の社会参加

未来への希望と課題

本学生活文化学科 教授

高橋 桂子

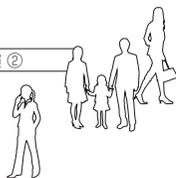
高橋 皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました実践女子大学生活科学部生活文化学科の高橋桂子と申します。昨年四月から本学で教鞭を執らせていただいております。宜しく願いたします。

専門は生活経営学、私の学生時代は家庭経営学と称していました。この学問領域は比較的新しく、開学百十余年という母校でも十五期生でした。一般に、経済三主体のひとつが家計(家族)です。政府は政治家や国家公務員が運営する、企業は社長が運営する、家計(家族)は夫婦を中心に運営しますが、高度経済成長期はその多くが専業主婦世帯、しかも財布管理として小遣い制の割合が高い日本では、必然的に家計に対す

る妻の関与が大きくなります。大事な家計を長期にわたり安定的に運営していくためには、専業主婦である妻も家計・家族に関する経済、法律、社会学といった基礎知識を幅広く学生時代に修得しておくことが必要でしょうということで創設された学問です。その中で私は経済を専攻しました。

現在、取り組んでいる研究は、男女共同参画社会の実現に向けた男性向け、女性向けの支援です。具体的には女性の継続就業意欲や昇進意欲の規定要因をヒアリングやアンケートから明らかにすることです。本日は残念ながら男性にはご参加いただけなかったようですが、家庭という最も重要な生活基盤をより盤石なものにするためには、父親がもっと家庭領





域にはいる、具体的には家事を行うことが必要だと考え、プログラムの開発・実践などにも取り組んでいます。本学にはプロジェクト研究所が設置されており、私は「女性キャリア形成研究所」のメンバーです。私どもは私学ですので、我々はこういった学生を育て上げますといった明確なメッセージ、本学で四年間学ぶことの意義を可視化する必要があります。講義・ゼミ、サークル活動はもちろんのこと、地元出身の友達とのつきあいから、全国各地から集った友達との様々な経験を通して、どのような素質が高まるか明らかにすることが必要だろうと考えます。塚原先生のお話とも少し重なりますが、人生は山あり谷ありです。しかも女性の場合、大卒後、選択しなくてはならない場面は多いですし、また必ずしも自分の意思によらざる選択で人生の方向が大きく転換されることもあります。そういった環境を生きていくには、人生の谷の部分で落ち込み過ぎない、しっかりと踏ん張って回復していくという精神的なしなやかさ、つまり「レジリエンス」が高いことが必要で、そういう力を持つ女性たちはこういった特性があるのか、プロジェクト研究所では昨年から日野・渋谷の両キャンパスの学生を対象に調査をしております。手元データを分析した段階では、サークルにはいつているとか、いろいろな経験をしていることがレジリエンスを高める傾向にあることがわかっていきます。

さて、前置きが長くなりました。本日は「女性の社会参加」をテーマに、大きく三つのことをお話しします。なお、社会

参加の形態はいくつかありますが、今回は有償労働とのかかわりに限定してお話をさせていただきます。最初に、日本全体の中で女性がどのように有償労働とかわわってきたのか、それは諸外国と比較をしてみるとどうなのか、統計で確認します。

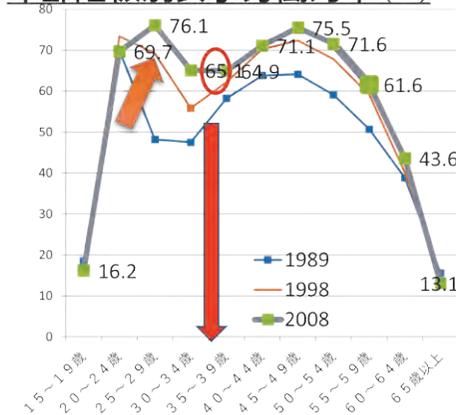
次に、「社会の中で大人は支え合えるのか」という大テーマに込めるべく、助け合う、支え合うという観点から「自助・共助・公助」という軸を設定しました。「自助」というのは自分で自分を助けることに加え、自分と一番親しい家族とか、社会の最小集団で助け合うこと、「共助」は地域社会、友人とか、そういった中でお互いに助け合うこと、そして「公助」は文字通り、政府が制度的に支援することです。社会参加は、どのライフステージに自分が居るかによって、求めるものも異なります。独身期、子育て期や自身のキャリア形成期などライフステージ別にみていきます。

最後に、女性の社会参加を進めるために必要な施策、課題について考えます。結論を先に申し上げますと、もつと毅然と対処してほしいのは公助です。二〇二〇三〇*という数値目標で女性が主導的な地位を占めるようにするよと言いながら、依然として税・社会保障システムは専業主婦を優遇する所得税制、公的年金制度のままです。かけ声と制度がマッチングしていない、アンバランスな状態にあります。今回の自民党税制調査会も配偶者控除の廃止を含めた抜本的改革が焦点になるはずだったので、結局は、配偶者控除の年収上限の

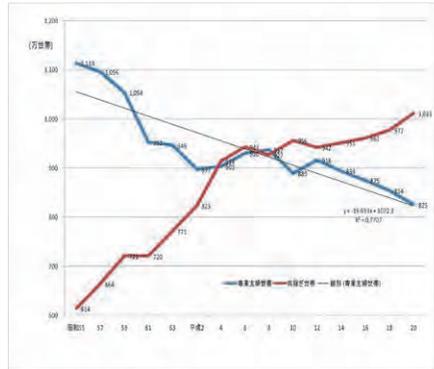
*「2020年までに指導的地位に占める女性の割合を30%にする」という内閣府男女共同参画局が掲げた目標

女性と有償労働との関わり

年齢階級別女子労働力率(%)



共稼ぎ世帯数 > 片稼ぎ世帯数



→ボトムが5歳右にシフト&アップ、M字型

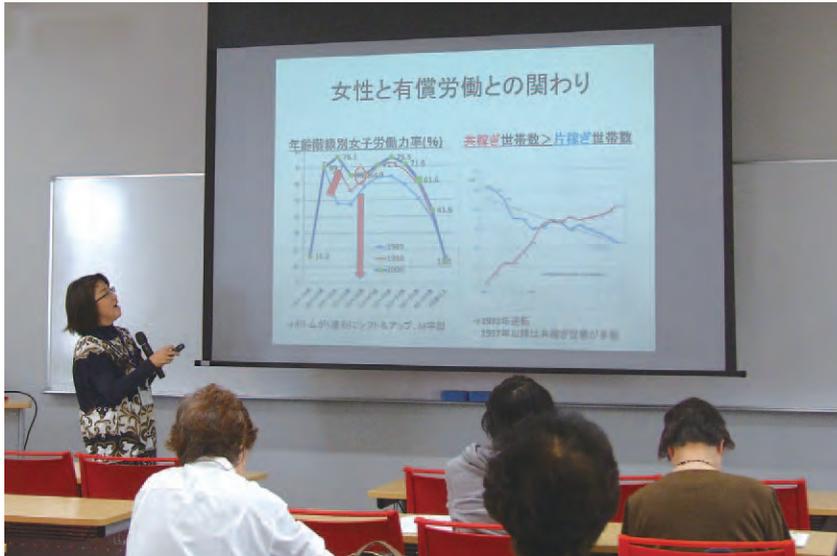
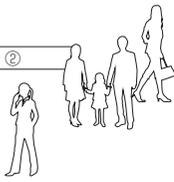
→1992年逆転
1997年以降は共稼ぎ世帯が多数

女性と有償労働のかかわり：M字型、潜在的労働力

底上げという想定外の結末となりました。もっときっちり方向性を示すべきだったと思います。

女性が有償労働とどうかかわってきたのか、統計を用いて確認していきましょう。左側のグラフは横軸が年齢、縦軸が労働力率です。労働力率とは、平たくいえば、その年齢で働いている人の割合になります。図中三本の線は、男女雇用機会均等法が制定された数年後からの約三十年間の動きをほぼ十年間隔で示したものです。同じ統計を使うことで、対象とする指標がどう推移してきたのか明らかになります。この形はアルファベットのMに似ているのでM字型就労といわれます。M字型になるということは、二十代後半から三十代に労働市場から退出してしまう女性が多いということを意味します。トレンドをみると、形は依然としてM字型ではありませんが、M字の底、ボトムが上がってきているねとか、M字のボトムの時期が最近になるほど少し右にずれているね、つまり晩婚・晩産化だね、といったことがわかります。

今回は日野市の皆様がいらっしゃるといことですから、日野市の女性労働力率はどうなっているのか確認してみます。皆さんは、お住まいの市の女性労働力率は、全国平均や東京都平均と比べて高いと思われませんか。それとも同じくらい、もしくは低いと思われませんか。ちょっとお尋ねしましょう。東京都平均に比べて日野市の女性労働力率は高いと思わ



れる方、同じくらいと思われる方、いや低いぞと思われる方はどうですか。そうですね。皆さん低いという所に一番多く手があがったようですが、正解です。より正確に言えば、日野市は東京都平均よりもちょっと低いかなという値で推移していました。直近の国勢調査では逆に、東京都を少し上回っていました。しかしながら、M字の谷が東京都平均よりも深いということは、直近のデータでも変わりません。なぜずっと東京都より低かったのか気になり、原因を解明したいと思ったのですが、今回はそこまで手が回りませんでした。別の機会にお話できればと思います。

女性労働力率が上昇している、つまり女性がどんどん働くようになったわけですから、世帯でみた働き方も変化しています。図中赤色で右上がりのラインが共稼ぎ世帯、図中青色で右下がりのラインが専業主婦世帯、学術用語を用いると片稼ぎ世帯です。いったい、いつ頃、世帯数が逆転したのでしょうか。最初に逆転したのは一九九二年です。一九九七年以降は共稼ぎ世帯のほうが継続して多いのです。

働き続ける女性が増えているのですから、当然、雇用者全体に占める女性の割合も増えています。一九八五年頃は約三十五%、三人に一人でしたが、最近では約二人に一人という水準にまで上昇しています。五〇%というのは、男性と女性の割合が同じという事態を意味します。

ここで、「潜在的労働力」という概念を紹介いたします。これは、働く意欲はあるものの調査時点で仕事に就けていない方のこ

とです。小さな子どもがいるから、介護をしているから、自宅の近くには思うような時給の仕事がないから働いていないけど、本当は働きたいと希望している人です。こういう女性が全国に三百五十万人います。現在のM字型労働力率にこの潜在的労働力率を合計しますと、きれいな台形型になります。

M字型、台形型と労働力率の形を強調して取り上げていますが、先進諸国の中で今日、M字型を呈する国は、韓国と日本のみしかありません。海外で研究を発表すると、研究テーマとは無関係に出る質問・コメントに、日本という国は素晴らしい、M字型で働くことができる国だから。三年間くらい子どもとどっぷり生活して、適当な時期に職場復帰できる。しかも正社員で自分の目指す仕事ができるんですよ、というものがあります。実情はまったく違います。若い時は正社員でオフィスビルの中で働ける。でも一旦、労働市場から退出すると、正社員での復帰はかなり厳しい。正社員割合が最も高いのが二十代後半という事実が傍証です。復帰後は非正規社員、時給の世界で働く女性も多く、これは学歴とは関係ない、と説明すると驚かれます。どの国の女性も、やはり正社員という安定した身分は手放したくないわけですから、なんとか工面して働き続けているのです。逆にいえばM字型が世界共通する女性の働き方であるならば、M字型の右側の山がパートではなく、短時間正社員という形で就労できるような環境を整備することでしょう。短時間正社員とは、正社員であるが一日八時間働かなくていいよ、六時間でいいんだよ、

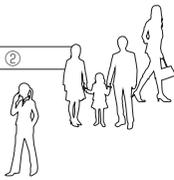
そのかわりお給料も八分の六だよ、というものです。十分でしょう。皆さん、いかがでしょうか。

税のあり方は国のかたちを示す

労働力率を国際比較する時、より重要なことは、アメリカでもフランスでもスウェーデンでも、どの国も必ずM字型を経験している、ということを知ることです。M字型で頑張っているが、M字型の働き方では、国の経済成長への寄与といった面からは十分なものは期待できません。そこで国民の就業選択行動を変える必要があります。それが、国のかたちを表すといわれる税です。

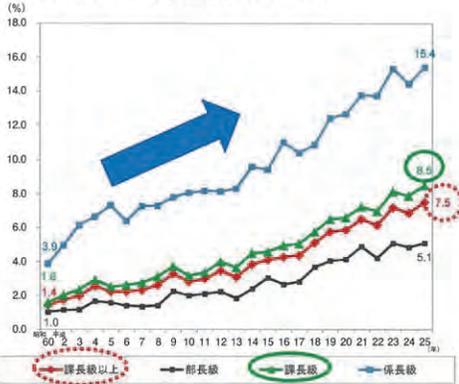
国によって、理想とする家族像や、結婚した女性はこうあるべきだという具体例がありますね。たとえば、フランスでは子どもがいて、しかも働いていることが大人の女性という考え方があるようです。だから、保育制度や税制で働く母親を積極的に支援しています。フランスでは戦後、子どもの数が多いほど所得税が安くなるN分N乗方式を採用しています。税のあり方は国のかたちを示すのです。

スウェーデンも同様です。スウェーデンでは税制における個人単位課税という原則が徹底していて、いわゆる配偶者控除に相当する控除はありません。ですから、配偶者の有無や配偶者の所得の多寡による個人の所得税額の変動は発生しないのです。日本は戦後、家族単位課税から個人単位課税となりましたが、いわゆる一〇三万円の壁、配偶者控除が存在する



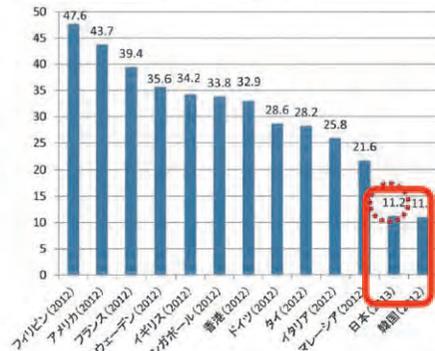
管理職

女性の役職者比率(規模100人以上) → 部長職は5%



資料出所：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

国際比較(2012, 2013)日本と韓国がワースト、ベストはフィリピン



資料出所：日本経済省統計局「労働力調査」、その他(独)労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2013」

日本の女性労働の喫緊の課題といえば、管理職割合の低さになります。管理職は通常、課長相当職以上の役職をさします。新入社員当時は平社員、そこから係長、課長、そして部長というキャリアラダーがあります。グラフで確認します。

左図の青色ラインが係長相当で十五%ですから、係長が百人いたら、その中で女性は十五人くらいいることを示しています。係長より上位の課長や部長になると一桁しかいません。

この低い管理職割合に関して出てくる企業側の回答は「そもそも女性自身が管理職になりたがらない」というものです。なんとなく、今はこの言葉でお茶を濁している状態です。あの意味、その心情もよく理解できます。女性には、安心して家庭や子どもを任せることができる専業主婦がいないわけ

低い女性の管理職割合…日本と韓国がワースト

ため、女性の就労インセンティブが抑制されてしまうことが指摘されて久しいです。スウェーデンでは一九七一年、税制改革で夫婦合算税方式から個別課税方式へと変更。それに伴い、M字型から台形型に移行し、同時に労働力率の水準も高くなっていったのです。

冒頭に申し上げましたが、人口減少社会で労働力人口が減少していること、GDP六百兆円を目指していること、女性の活躍推進が第二次安倍内閣の成長戦略のひとつであることなどを考えあわせると、配偶者控除はやはり、きつぱりと廃止すべきだったと考えます。

ですから、仕事だけに全エネルギーを注入することは不可能です。しかしながらやはり、能力ある女性は管理職に就くべきと考えます。授業でも、なぜ子どもを預けて母親は働くのか・働かなくてはならないのか、なぜ女性は管理職にならないくてはならないのか、などディスカッションします。もちろん、万人向けの正解はありません。しかし、自分の仕事人生を預ける所属企業の組織のあり方を決めていくのは取締役会のボードメンバーで、そのメンバーにきちんと話を聞いてもらえるオフィシャルなチャンスを持つのは管理職です。管理職女性が増えなかつたら、いつまでたつても事態は変わらないです。

先進諸国の多くは、管理職のみならず、決定権を持つボードメンバーの女性比率を高めようと知恵を絞っています。日本は一・五七シヨックがありましたので、ここ三十年くらいは少子化対策に重点がおかれ、女性の継続就業、地位向上に対する支援は立ち後れています。

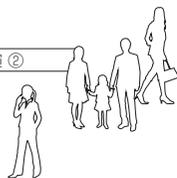
では、どの国が女性管理職割合が一番高いでしょうか。それはフィリピンです。フィリピン、アメリカ、フランス、スウェーデン、イギリスあたりまでは四割、五割という数字です。この指標も図中右端、日本と韓国だけ一段と低い。なぜ、日本と韓国だけ、諸外国に比べて一段と管理職割合が低いのでしょうか。外国の方は、そうだ、日本と韓国は儒教の国だから低いのだ、ということでは勝手に納得されているようですが、果たして本当にそうでしょうか。後で時間があれば

少しお話ししたいと思いますが、韓国は二〇〇年にはいつから女性省を創設し、女性の地位向上に関する取り組みを精力的に実施しています。

役職を指さず、家庭と調和できる範囲で働き続けるという選択肢もあるでしょう。けれども、結婚退職制・男女別定年制の廃止、男女雇用機会均等法の制定など、先輩女性が戦って勝ち取ってきたものをしっかりと育てて次世代にきちんと手渡せるよう実績を積み重ねていくことが我々世代の務めです。そのためにも、皆さんも部長、課長と呼ばれるようになってみましょう、というと、じゃあ先生、どこに行ったら部長になれるんですか、大企業それとも中小企業ですか、という質問が学生から出ることもあります。企業規模別にみると、百人以上四九九人未満で女性の管理職割合は高いのです。つまり、小さ過ぎても大き過ぎても役職は遠い存在であることがわかります。この百人以上四九九人未満規模の会社ですと、継続就業できて、しかも係長、課長、部長になれる確率が高いようです。

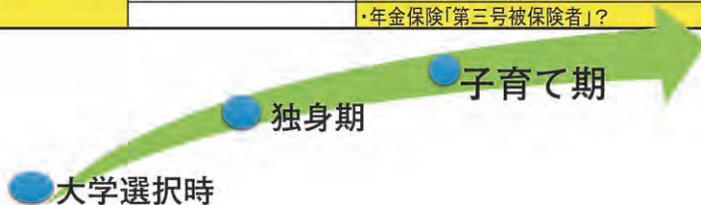
優秀な大卒女性を最初に積極的に採用したのが外資系企業です。日本の中小企業も、もう少し頑張つて女性を総合職として採用し、そして管理職候補生となるまで育成してほしいと思います。

管理職になる人は計画的に育成されていきます。女性管理職割合は三〇%以上というように数量を割り当てるやり方がクオータ制です。クオータ制に関しては、数値目標を設定



ライフステージ別の自助・共助・公助

	ライフステージ			
	大学選択時	独身期	子育て期	キャリア形成期
自助	・進路を見据えた学部・専攻の選択	・資格取得 ・社会人大学院進学	・総合職女性の「継続」の知恵： 駐車場借りる、週1残業デー ・父親の育児・家事参加	・資格取得 ・社会人大学院進学
共助		・（職場の先輩を支える！）	・親世代を近くに呼び寄せる ・相互に子どもの面倒を見る ・「かんかん森」共住・共食	・（職場の後輩を支える！）
公助	・奨学金制度の拡充		・所得税「配偶者控除」？ ・年金保険「第三号被保険者」？	



することは女性に下駄を履かせ、能力のない女性が管理職になり、能力ある男性の昇進機会を奪う逆差別だという主張もよく耳にします。結果の数値目標ではなく、機会の数値目標というアプローチもあります。クオータ制について研究されている早稲田大学の谷口真美先生は「クオータ制は有能な女性に機会を提供した」と主張されています（日本経済新聞 二〇一五・八・一二付）。まさしくそうだと思います。女性の活躍推進を成長戦略のひとつと位置づける第二次安倍内閣にこそ、このクオータ制を政治・行政・経済あらゆる場面で積極的に採用してくださることを期待します。

日本の場合も、課長や部長になるには、求められる高いハードルがいくつもあります。役職に相応しい職務技能・経験がないとだめですし、二十四時間対応可能を求められることもあるでしょう。さらに役職適任者に対する会社特有の好みもあるでしょう。現在の女性管理職の属性をみますと、結婚していても子どものいる人は少ない。子どもがいないと基本的に独身と同じですから、その人は二十四時間、男性並みに働くことができます。しかし、人口減少社会にはいり、労働力人口が減少し、しかも労働力人口の平均年齢が高齢化しはじめている日本を動かしていくのは、「俺についてこい」といった高度経済成長期型のリーダー像でしょうか。それとは異なるものだと思います。

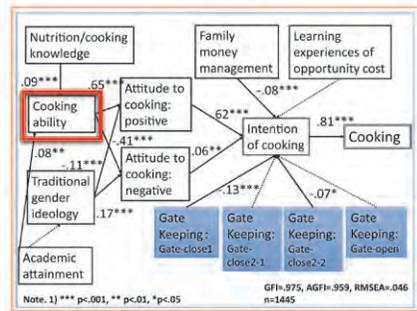
Stage3 子育て期: 父親の家事参加を促進する要因

6歳未満児を持つ父親の育児・家事
時間 (時間/day)



(出典) 内閣府

料理参加に関するパス解析



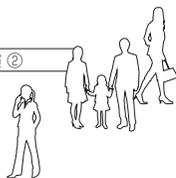
(出典) Takahashi, Kurokawa, & Kuramoto(2016)

ライフステージ別にみる自助・共助・公助

女性の社会参加、自助・共助・公助についてライフステージ別にみていきたいと思えます。こちらにも結論を先に申し上げましょう。働いている女性たちにアンケートやヒアリングで調査をさせていただいておりますが、おお、なるほど！という知恵があつたのか、と感心することしきりです。日本の女性たちは頑張り過ぎるくらい頑張っています。共助の新しい動きについてもいくつかお話しします。

大学選択時

最近では、大学受験時に、女子だからではなく、自分の適性・進路を見据えて学部・専攻を選択しています。また、奨学金制度も随分、拡充しています。本学でも、学部学生の約半数は何らかの奨学金を受給しています。特徴的な奨学金制度に「奨学融資制度」があります。慶應義塾大学では一九九七年から採用しています。これは、提携先金融機関から一般の教育ローンより低い金利で借りることができる学費ローンで、保証人の所得が低い場合は慶應義塾大学が連帯保証人となってくれるものです。在学中に支払った利子は大学から奨学金として給付され、在学中は元金返済据え置き、返済期間は最長十四年というものです。これがあれば、在学中は教育ローンの支払いのためにアルバイトをすることもなく、集中して勉学に励むことができそうです。当時は消費者の自立がうたわれだした頃だったこともあり、随分、注目された記憶があ



ります。現在はどうなっているかとホームページなどで確認したところ、一部、大学院のみでの実施に縮小されているようでした。また明海大学では、明海大学・みずほ銀行提携奨学融資制度が用意されています。

子育て期

総合職一期生世代を対象とした調査をご紹介します。働き続けるために、どんな支援や知恵があるか、大企業にお勤めの方にヒアリングしたものです。働き続けるために、地方から親御さん呼び寄せたのでしょうか。いえ、もっと自立的・合理的で、かつ、厳しい選択でした。たとえば旦那さんが少し年上です。白髪交じりだから、電車に乗って保育園へ送迎してもらおうのは申しわけない。そこで「タクシー代を私が持つから、お願いします」という形で役割分担している。高齢出産だったので体力もない。気持ちよく子育てしようという事でこのような形になったようです。また、ペーパードライバーを返上して自動車を購入し、保育園の隣に駐車場を借りて、車で自宅と保育園を往復できるような環境を整備したケースもあります。子どもをピクアップして、徒歩や自転車でスーパーに買い物に行くのは大変だということです。現在なら買い物はネットスーパーでという手もあるでしょうが、当時はそれが無い。何か新しいことに踏み出そうとすると、持ち出しになる部分は多いようです。でも、その持ち出しがあるからこそ、継続就業を実現させているのです。配偶者と別企業に勤務する方は、配偶者の週一回ノー残業デーは私の残

業デーとしてしつかり残業する。いくら子どもを育てているといっても、役職ある身で働いて、それで毎日、定時帰宅では仕事も滞る、相談しようと思っている部下も不安を覚え、いつの間にか不満に変わっていく。週一回は思う存分働ける日がある、ということでも部下も満足、私も満足。こういった話を聞きながら、現実には厳しい、凄すぎる、でもきちんと対処している人がいる。と何か妙にゾクゾクと興奮しました。同時に、ここまで頑張らなくてはならないものかと思ったこともよく覚えています。

お父さんたちも、遠慮せず、家事参加してほしいと思います。日本の男性の家事参加率は圧倒的に低いです。六歳未満児の保育園、幼稚園に行っている子どもがいるパパですら育児は三十九分。家事トータルの時間七分から三十九分を引いた残りの二十八分が家事なのです。他国と一日あたり二時間もの開きがあります。父親の家事参加に関して、午後七時までに帰ってくるパパは家事も育児もするというゴールデンルールがあります。それはできる、ということ。お父さんたちにもっと家事参加してもらうためには、働き方に関して大胆にメスを入れる必要があります。日本では定時退社したとしても、街中至るところに安い居酒屋さんが溢れていますし、子ども部屋があってもパパ部屋があるご家庭は少ないでしょう。パパが一人になれる居場所を家庭内に設けることも、家事参加促進に効果があると考えます。

さて、共助という観点からお勧めしたいのは、コレクティ

共助

Stage3 子育て期:

多世代賃貸住宅

「コレクティブハウスかんかん森」

(東京都荒川区、西日暮里)

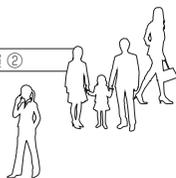


- ・ **コレクティブハウス**：空間と時間の一部の共有を通して、ゆるやかにつながるコミュニティを創り、暮らす住まい方、スウェーデンなど北欧に多い
- ・ 設置：2003年、12階建ての2-3階部分
- ・ 住民：0～89歳、大人34人と子13人
- ・ 特徴：週2～3回の「**コモンミール**」
- ・ 利用者：子育て世代、高齢者
- ・ 家賃：7万円/月～15万円台



ブハウス「かんかん森」という北欧を中心に普及している参加・共生型の居住スタイルです。「かんかん森」のキーパーソンは、日本女子大学家政学部住居学科にいらした小谷部育子先生です。設立準備委員会をつくり、中学校跡地を確保し、居住予定者たちも参加して、どんな部屋が必要か、どこに何を配置するか、住まい手の参加により計画が進められました。特徴は、空間と時間の一部を共有する緩やかなつながりで、週二～三回開催される「コモンミール」(夕食)です。食事がメニューを考え、調理し、コモンダイニングで一緒に食卓を囲みます。当番は月一程度で、都合の良い日に登録できる仕組みになっています。コモンミールへの参加自体も自由。メンバーの結束力を高める「同じ釜の飯を食う」仕掛けも、ちゃんと組み込まれています。

週二～三回、居住者同士と一緒に食事をする仕掛けがあると誰がハッピーでしょうか。小さな子どもがいる家族や元気な高齢者でしょう。子どもを抱える母親たちは、手作りのおいしい食事を作っておな一杯、子どもに食べさせたいと願うものです。しかし早朝からの仕事ですでにエネルギーが枯渇している時、一緒に生活しているメンバーが夕食を作って待っていてくれるということほど、嬉しいことはないでしょう。小学生にとってみても、一緒に食卓を囲み、時にはいい子だねえ、おいしいね、もつと食べる?と言ってくれる顔見知りのおじいちゃまやおばあちゃまがいるから、小学校から帰ってきて、コモンダイニングで宿題をやるのかなと思うので



す。鍵っ子にならなくても良いのです。

このように修正拡大家庭的な、血縁関係にはないけど強い地縁関係で結ばれた人たちがいて、それぞれにニーズがあり、それが満たされている限り、生活の場として選択されているようです。コレクティブハウスはかんかん森が第一号ですが、日本全国に六カ所くらいはあると思います。

最後に、公助に移ります。所得税の配偶者控除をどうするか、です。配偶者控除は一九六一年に創設されています。この頃は高度経済成長期。男性は二十四時間働き、女性は家庭を守るという家族像があり、それが最も合理的だったことから、配偶者控除が創設されたことは当然でしょう。けれども半世紀が過ぎ、知識基盤社会、サービス・情報社会、二極化社会を迎え、女性の大学入学率が上昇し、共稼ぎ世帯が過半数の今日、配偶者控除があることで一番メリットを受けているのは、年収一千万円世帯の家庭だ、という研究があります。低位安定成長により、若い労働者たちの給与はあまり伸びない、給与が伸びないから結婚できない、結婚できないから配偶者控除のメリットすら享受できない。年収が一定以上あって結婚できている人でも、平均年収は六百万円とか七百万円といわれます。妻がパートで百万円上乗せしても一千万円には届かない。配偶者控除があることで年収三百万、四百万円の人たちがメリットを受けているのなら、廃止を主張する人も少ないでしょう。何か納得できない事態です。

政策として進むべき方向性は明らかです。少子化は解決す

べき大問題という認識があるのなら、従来の専業主婦優遇政策から、子どものいる世帯を優遇すべきなのです。それが単身世帯であれ、共働きであれ、専業主婦であれ関係なく、子どもがいる世帯を大々的に応援する。専業主婦優遇政策から子どもを育てる世帯に優遇をシフトする方向性は明確で、しかもおそらく間違っていない。イギリスでは二〇〇二年に、子どもを育て、しかも働き続ける方がメリットが大きいです。すよという所得税制に改革しています。

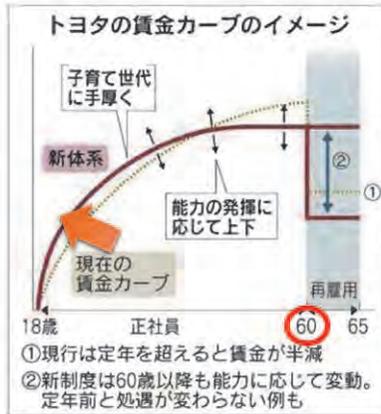
この点、国の動きに先んじて、企業で新しい動きがみられます。たとえばトヨタです。手当金総額を増やし、支払い先の比重を配偶者から子どもにシフトさせます。トヨタでは二〇二一年度を完成年度としてすでに動いています。右側の表の赤字で囲ったのが現行制度で、専業主婦がいると月二万円、子どもが二人いると月一万円。つまり妻と子どもが二人いたら、夫の給与には家族手当として三万円つきます。これが二〇二一年ではどうでしょうか。専業主婦がいると月ゼロ円、子どもが二人いると月四万円で、現行制度より月一万円の増額です。誰も反対しないスマートな提案です。ホンダも同じ方向を向いています。これはまさに国が示すべき方向なのです。

女性の社会参加に向けて取り組む主体・課題は何か

最後に、女性の社会参加に向けた課題で纏めます。公助は、今ほど申し上げましたことを中心に取り組むことが必要とい

(参考)トヨタと賃金・手当

①定年＆「賃金カーブ」



(出典)日本経済新聞、2015年1月27日

②給与：専業主婦世帯→子育て世帯支援

		現行制度	2016年	17~20年	21年
夫婦世帯	配偶者	1万9500円	1万6000円	1万2500円 →3000円	0円
	子育て世帯	1万9500円	0円	0円	0円
子育て世帯	子ども1人目	5000円	2万円	2万円	2万円
	子ども2人目	5000円	1万1500円	1万3500円 →1万8500円	2万円
合計		2万9500円	3万1500円	3万3500円 →3万8500円	4万円

※配偶者は無職または年収103万円以下の場合

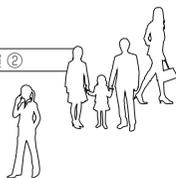
(出典)読売新聞、2015年9月9日

うことで、共助について詳しくみます。

共助、特に企業として何ができるか。それは、それぞれのニーズを持つ社員が気持ちよく働き続けることができるように、働き方の選択肢を用意して後押しすることだと考えます。実際、多くの企業が率先して独自の働き方改革を進めています。たとえば伊藤忠商事。ここは朝勤務で有名です。残業するなら夜ではなく早朝、午前五時から可能というのです。朝早く出社した社員には、パンとヨーグルトとバナナも提供しています。しかも割増賃金率五〇%と高い。家族がいる女性たちの多くは朝型です。よくいわれることは、出張は朝一番の飛行機です。その理由のひとつにはどうも食事が関連するようです。朝ご飯だったら誰でもつくれるけれど、夕食時間がいつもより遅くなった上に購入した総菜が続くことに抵抗を示す子どもや配偶者が多いようです。朝社会にする、というのは働く既婚女性にとってメリットが大きいと思います。

ユニクロでは週休三日制を導入しています。法定労働時間は週四十時間。一日八時間労働で五日勤務して四十時間、週休三日制ということは四日間は働くということですから、一日十時間勤務を四日行うこととなります。これは圧縮労働制といわれます。

余談ですが、イギリスには学期間労働といって、夏休み、冬休みといった子どもの学校の休暇中は、無給ですが纏まった休みを取ることができる働き方もあります。その他、フレックスや変形労働など利用することで、子どもをどこかに



預けるにしても短時間で済むことが可能になります。より多くの企業で自由度の高い働き方の提供が求められます。

女性の社会参加に関する示唆

最後に、女性の社会参加に関して二つ、お話しして終わりにいたします。

一つ目は、農家の女性に対するヒアリング調査から得た知見です。前任校・新潟大学教育学部に着任して早々、新潟県ならではの調査をしたということで同僚と一緒に取り組んだのが、農家女性の経済的自立に関する自主研究でした。当時、農林水産省は家族経営協定という農業に関する家族内での取り決め・ルールを作成し、文書化させることを推進していました。端的にいえば経営の合理化です。そこには役割分掌、労働時間、休憩時間、休日や給与といった項目がありました。たとえば、母ちゃんは青色申告しているから月給七万円とか、水曜日の午後は私の休日など。締結世帯にどの項目が一番嬉しかったか尋ねました。お給料が数字として明示されたことかしらと予想してお尋ねしますと、意外とそうでない。休日を明確にもらえたことなど、項目云々ではなく、初めて農業のことに関して経営主と同じ土俵の上で議論することができたという意見があがっていました。同時に、娘さんからお母さん最近とても生き生きしていると言われたとか、この畑は私の担当になったから、これからはしっかり勉強しなくちゃいけないとか、責任を持って仕事を任されることです。

どれだけその人を成長させ、輝かせるのか。農家女性に対するヒアリング調査から、このような点を実感させてもらいました。

二つ目は、某テレビ番組です。抱えきれないほどの大きな荷物を持った、現代風の若い美人が路上で困っています。さて、誰が助けに来るでしょう、ということを様々な国で調査していました。多くの国では、予想通り、若い男性です。けれども女性の社会進出が進んでいて、管理職の割合も高く、クオータ制を採用している北欧では、誰が助けられたと思われましか。私もびっくりしましたが、真っ先に助けに現れたのは、手押し車を引いたおばあさんでした。年齢、属性や考え方は違えども、同性同士がしっかりと助け合っているのです。女性の地位を向上させようと思うのなら、女性同士が相互にしっかりと助け合う必要がある。この二つのことは、講義の中で学生に伝えるようにしています。

最後は駆け足になりました申しわけございませんでした。皆様方から質問をお聞きする時間がないようですが、何かありましたら、いつでも気楽にメールください。ご静聴いただき、ありがとうございます。

司会 高橋先生、どうもありがとうございます。時間が延びていますが、せっかくですから何かご質問があったらと思います。いかがでしょうか。お二人とも、とてもお話が充実していて私はもう少し聞きたいくらいだったんですが、



大勢集められなかった私の責任でもありません。すいませんでした。

皆さん時間が過ぎて大変申しわけないのですが、ぜひ今後の参考にしたいと思いますので、お帰りの前にアンケート用紙にご記入いただければと思います。今日にご参加いただきありがとうございます。

高橋 本日は長い時間おつきあいいただき、ありがとうございました。

学科の様子

授業の紹介..... 28

南雲 成二	本学生活文化学科 教授
長谷川 恭子	本学生活文化学科 助教
細江 容子	本学生活文化学科 教授
水野 いずみ	本学生活文化学科 准教授

先生方の研究紹介 41

松田 純子	本学生活文化学科 教授
田中 正浩	本学生活文化学科 教授
作田 由衣子	本学生活文化学科 専任講師

学生による就活体験記 51

戸高 優	生活文化学科 幼児保育専攻 4年
佐藤 彩加	生活文化学科 幼児保育専攻 4年
片岡 彩花	生活文化学科 生活文化専攻 4年
澁谷 友宇子	生活文化学科 生活文化専攻 4年

学科の活動 58

学科の様子

誕生から死——そして世代継承。「人の生涯にわたる発達」へのまなざしを持って生活を探求することが、生活文化学科の学びの基本です。(実践女子大学ホームページより抜粋)

ここでは、「①授業の紹介」「②先生方の研究紹介」「③学生による就活体験記」「④学科の活動」の各テーマごとに、生活文化学科の様子をご紹介します。報告をさせていただきます。

学科の様子



授業の紹介

幼児保育専攻・幼小コース（幼稚園一級・小学校一級免許取得）の学び

本学生活文化学科教授 南雲 成二

生活科学部生活文化学科幼児保育専攻に、小学校一級と幼稚園一級免許を取得できる専攻「幼小コース」が誕生し、第一期生がゼミ開始学年の三年生となる時、南雲は公立小学校校長を経て実践女子大学に着任しました。二〇一三（平成二十五）年四月のことです。この頁では、南雲が担当している授業内

容の報告を兼ねて紹介を進めます。南雲の専任担当分野は、《幼児保育と初等教育》に従事する教師の育成、その専門的職能成長基礎支援です。特に「ことばの教育、言語（国語科）教育の具体的実践に関する研究」「単元学習の構成と展開、授業評価と改善、学級・学年経営の創出と改善研究」を中心に授業を展開しています。

まず、第一学年です。

（1）前期十五回二単位…科目名「国語」（幼保コース&幼小コース必修 六十名程度）



① 授業の紹介



② 先生方の研究紹介



③ 学生による就活体験記



④ 学科の活動

(2) 後期十五回二単位…科目名「初等教科教育法 国語」(幼稚園保育専攻幼小コース【小学校一級免許取得・幼稚園一級免許取得】必修 約十名)

(3) 後期十五回二単位…科目名「教育方法・技術」(幼児保育専攻幼小コース必修 幼保コース選択 約十三～十五名)

(4) 後期十五回一単位…科目名「基礎演習Ⅰ(言語領域)」(生活心理専攻&幼児保育専攻一年生必修 一〇〇名程度)

次に、第二学年です。

(5) 通年三十回二単位…科目名「児童教育法」(幼小コース必修 約十名)

(6) 前期十五回二単位…科目名「特別活動の指導法」(幼小コース必修 約十名)

(7) 前期十五回一単位…科目名「教育学演習」(幼保・幼小コース選択・必修 約十五～二十五名 ※二年生以上履修可、教職採用試験対策内容も含む。二〇一七年度より)

次に、第三学年です。

(8) 前期十五回二単位…科目名「カリキュラム論a (小学校)」(幼小コース必修 約十名)

(9) 通年三十回二単位…科目名「教育実習指導」(小学校四週間教育実習(事前・事中・事後学習)) (幼児保育専攻幼

小コース必修 約十名)

(10) 四週間集中(原則九月～十月)…科目名「小学校 教育実習」(幼小コース必修 約十名 この後二月上旬「幼稚園教育実習 二週間」連動して実施。)

次に、第四学年です。

(11) 後期十五回二単位…科目名「教職実践演習」(幼小コース必修 約十名)

また、第三学年からは、生活文化学科ゼミナール(「南雲ゼミ」)がはじまります。

(12) 通年三十回四単位…科目名「三年ゼミナールⅡ教師教育実践演習・初等教育研究」(幼小コース必修 五～六名)

(13) 通年三十回六単位…科目名「卒業論文制作Ⅱ四年ゼミナール(教育実践文化研究・教師教育研究)」(幼小コース必修 五～六名)

以上、大学一年から四年までの授業科目を紹介してみました。

この十三科目を通して幼児保育専攻「幼小コース」の学習(授業)が展開されます。紙面の都合上、科目No.11 教職実践演習に絞って授業のテーマと到達目標を届けます。詳細は「講義要項(生活科学部版)」を読んでください。尚、もう少し詳しい内容



を知りたい方は、左記の「補助資料」(この四年間で取り上げていただいた南雲ゼミ関連コラム)を参照して欲しいと思います。

補助資料

- (その一) 実践女子大学後援会「会報 91号」(August 2013)「P29：南雲紹介「生活文化学科」学びをとおし偶然の出会いを必然に」
- (その二) 「実践だより vol.117」(2013.7) P2「新任の先生、ようこそ実践女子学園へ」南雲コラム
- (その三) 実践女子大学HP 職員紹介における南雲ページ ①最近の研究テーマ ②主な担当授業と概要 ③研究室・ゼミ紹介 ④受験生へのメッセージ
- (その四) 実践女子大学後援会「会報 94号」(February 2015)「P39：大学ゼミ紹介「南雲ゼミ」、幼小コース第一期生三人の言葉
- (その五) キャンパスガイドブック「Campus Guide Book 2017」P111～112「特色ある学び：三年南雲ゼミ 教師教育実践演習」の授業風景とメッセージ

【南雲授業科目 No.11 第四学年後期二単位 幼児保育幼小コース必修 教職実践演習】

授業のテーマ…「小学校教諭・幼稚園教諭としての最終準備、保育・教育実践力の点検と整備・拡充」が授業のテーマです。「教職の意義と価値」「学年・学級経営力の伸長」「保育力・守育力(療育・慈育・愛育)・学習指導支援力の向上」「幼児・児童理解、保護者理解の深化」「組織協働力・チーム力の基礎基本」の、五つの観点を大切に授業(学習)が構成され、主体的な演習・探究が進められます。

講義・グループ協議、模擬授業研究・授業評価改善研究、卒業論文制作を核とした個人研究の交流等、様々なアプローチを組み合わせながら授業を展開します。一人ひとりの学び手が主体的に授業に参加参画し、教育実践力(「教師力・担任力」)のさらなる進化(深化)を紡ぎあっています。

授業における到達目標…教育保育に従事する専門職人としての「職能成長の基礎基本」を修得する。①小学校教諭・幼稚園教諭としての使命感や責任感、教育愛(保育・療育・守育)についての認識と自覚を深めあい高めあうことができるようになる。②自分自身の教育実践課題を明確にすることができるようになる。③子ども理解、保護者理解を深めながら、その基礎となる担任としてのコミュニケーション力を高めること

ができるようになる。年間を見通した学級・学年経営の基本を身につけることができるようになる。

また、実践女子大学のデプロマポリシーに即して言えば、学生が修得すべき「協働力」のうち、特に①自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進める力と、②互いに尊重し信頼を醸成して豊かな人間関係を構築することができる力を積極的に修得する。

◎いつでもどこでも、子どもたちの「あそぶ・よろこぶ・まなぶ」を大切に、明日へいく(行・育)生きる力を子どもと共に保護者と共に紡ぎだす先生になりましょう！

◎また、次のことも是非こころがけていきましょう。

(a) はっけん、たんけん、ほっとけん の三つの「けん」

↳ 学びと遊びと喜びのエネルギーです。併せて

時間・空間・人間の「三かん」も大切に……

(b) あんぜん、あんしん、あんてい の三つの「あん」

↳ ドラえもんの主題歌にあったアンアンアンです。

アンパンマンのやさしさ・つよさ・かしこさともつながります。一人ひとりの子どもの命、居場所を大切に

(c) げんき、こんき、ゆうき の三つの「き」

↳ 元氣(源喜)、根氣(根基)、勇氣(有機)、この三つの「き」が、「やるき」をはぐくみます、そだてます。↳





授業の紹介

保育者・教育者として〈音楽〉を学ぶ授業

本学生活文化学科助教 長谷川 恭子

幼児期や児童期において音楽に触れることは、人間性の育成の一端を担い、表現力を豊かにします。保育や初等教育に携わる保育者・教育者は、〈音楽〉の知識や技術を少なくとも最低限は持つていなければなりません。〈音楽〉の楽しさを自身が知っておくということも大事なことです。



写真1 『保育表現技術a(音楽表現)』の授業の様子：
わらべうたによる音楽指導



写真2 『保育表現技術a(音楽表現)』の授業の様子：弾き歌い

学生の、大学入学時における音楽学習の経験値はさまざまです。楽譜が読めて、ピアノも幼児期から大学入学時まで習っていたという学生もいれば、楽譜も読めないし、ピアノも未経験で、小中学校の音楽の授業も嫌いだった、という学生もいます。音楽の経験値も好みも全く違う学生たちですが、保育・教育をする立場を目指しているということは共通しています。

保育では、「音楽」は表現領域のカテゴリーのひとつです。幼児は〈音楽〉のみを経験するわけではなく、総合的な表現活動の中で〈音楽〉を経験することで、少しずつ音楽に関わる感性が育っていきます。しかし、保育者は幼児に音楽を楽しませる一方で、どのような感性を育成したのか、ねらいを持ちながら活動内容を設定することが必要です。そのような指導力を得るために、学生たちは音楽の楽しさを体験しながら、知識も学ぶことが必要です。

一年生の『保育表現技術a(音楽表現)』は、保育において音楽を扱うために、音楽の表現に関わる知識技能とピアノの演奏や弾き歌いの技術を学びます。この授業では、保育現場で実際に扱うことができるものを教材としながら、音楽の知識を学んでいくようにしています。そのような教材のひとつであるわらべうたは、実際に歌い、遊んでみ

ると、大人でも楽しい時間を過ごすことができます。これを音楽の観点から見ると、子どもが親しむ歌によく含まれているようなリズムが身体の動きに合わせて感じられたり、単純な音型が繰り返されることで音の高さやその違いを感じることもできる教材なのです。学生たちは、笑い声をあげながらわらわらうたを楽しんでいます。楽しさの中に潜む音楽の要素に目を向けて学ぶ時には、真剣な面持ちで取り組んでいます。

二年生の『音楽』は、音楽教育に携わる保育者・教育者としての教育観を持つことと、音楽の表現力をさらに深めることを目的とした授業です。この授業では、音楽教育の歴史や、音楽能力の発達、外国の音楽教育の理念や実践について講義しています。これらの知識を得ることは、音楽教育に携わる保育者・教育者としての知見を拡げ、音楽の活動を「なんとなく」やってしまうのではなく、より楽しめる活動にするための基本的な情報となります。そして、学生が指導者になった時にどのような表現活動を子どもたちにさせたいのかを考えるための観点を作ります。また、一年生の授業で体験しながら得た音楽の要素を、この授業では理論として理解し、基礎的な理解を確立することを目指しています。音楽の基礎的な理論を理解しておくことは、保育・教育現場でさまざまな音楽を扱う際、新しい教材に自力で取り

組む力として必要です。授業ではこの他、合唱や合奏にも取り組み、音楽の（表現者）としての側面の育成も目指しています。幼小コースは、この他に『初等教科教育法（音楽）』も学びます。この授業では、小学校学習指導要領音楽編の内容を理解し、小学校の音楽科の教材を扱いながら、指導者にふさわしい概念を持つことを目的としています。小学校六年間における音楽教育の系統性について理解を深め、表現・鑑賞の二領域をどのように教えていくのかを学ぶ授業です。最終的には、学生自ら指導案を作成し、模擬授業を行います。また、音楽の生演奏



写真3 『音楽』の授業の様子



写真4 『初等教科教育法（音楽）』の授業の様子：模擬授業



の素晴らしさを知るために、学生が興味を持った演奏会に足を運ぶという取り組みも行っています。児童の「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「音楽活動の基礎的な能力」を育てながら「豊かな情操を養う」ための授業計画を構想することは容易なことではありませんが、実践的な学びを繰り返し、音楽科の指導者としての実践能力を少しずつ高めながら、音楽科教育に対する理念について考えを深めていきます。

これらの講義では、実技を授業内で発表する機会が多いですが、授業以外で一・二年生合同の発表会も行っています。学生たちは緊張しながら発表をする一方で、お互いの発表を楽しんでいます。このように、〈表現する〉時間を共有する楽しさを知っておくことも、学生たちが保育者・教育者になるためには必要な経験なのです。

音楽を専門分野としない学生たちが、音楽の指導者とし

て子どもの前に立つための学習をしていくのは大変なことだと思いますが、さまざまな音楽表現を体験し、子どもに音楽の楽しさや素晴らしさを自身の経験とおして伝えていける指導者になってほしいと願っています。そのような音楽の活動を子どもに体験させることが、音楽の美しさに触れる経験の一助となるのです。



写真5・6 『保育表現技術a(音楽表現)』『初等教科教育法(音楽)』合同発表会



授業の紹介

特色ある学び

ウーマンズ・イニシアチブのための教育構想に 基づくセミナーと講義

本学生活文化学科教授 細江 容子

■知識基盤社会とその学び

二十一世紀は、「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代といわれ、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域の基盤として、飛躍的にその重要性を増すとされている。

その「知識基盤社会」の四つの特徴を示すと以下のような(平成八年 中央教育審議会答申より抜粋)。

- ① 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む
- ② 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる
- ③ 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる
- ④ 性別や年齢を問わず参画することが促進される

このような社会では、社会の構造的変化の中で大人自身が変化に対応する能力が求められている。さらにそのことを前提とし、次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」を身につけさせることの重要性も文部科学省から示されている。

このような社会の中で、この「キー・コンピテンシー」の特定と分析、それに伴いこのコンセプトへの各国共通の理解が強調され、一九九七年末にOECDは『コンピテンシーの定義と選択』(The Definition and Selection of KEY COMPETENCIES: DeSeCo)^注の策定に着手し、二〇〇三年に最終報告を示している。それによると「コンピテンシー」とは、単なる知識や能力だけではなく、技能や態度をも含む様々な心理的・社会的なりソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応できる能力であり、個人の能力開発に十分な投資を行うことが、社会経済の持続可能な発展と世界的な生活水準の向上にとって唯一の戦略であるとされている。さらに、キー・コンピテンシーに関する次の三つのカテゴリーも示されている。

- ① 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力(個人と社会との相互関係)
 - ② 多様な社会グループにおける人間関係の形成能力(自己と他者との相互関係)
 - ③ 自律的に行動する能力(個人の自律性と主体性)
- 本セミナーや講義は、このような国際的教育の流れを基に構想されたものである。

■学びの概要と特徴

本セミナーや講義の概要と特徴は、



- 今日のグローバルな知識基盤社会を生き抜くために必要とされる、一:批判的思考力、二:問題解決能力、三:コミュニケーション能力、四:コラボレーション(チームワーク)能力、五:自立的に学習する能力を身につけるためのセミナーや講義である点
- グローバル社会を生き抜くために女性として必要とされるウーマンズ・イニシアチブを社会の中で発揮して生きる女性の創造(下田歌子の述べる「自立自営しうる女性」と関わる)を目的としたセミナーや講義である点である。

■学びのためのアピールポイント

細江の専門分野である家族領域におけるセミナーや講義における学びのためのアピールポイントを示すと次の様になる。

- 現実の家族・社会の学習を通じて活用できる知識・技術の獲得
 - ↓講義や文献等を通じての分析的・構造的学び
 - ↓著名な国内外の研究者、実践者の講義やそこでの議論を通じての具体的学び
- 現実の家族・社会の学習を通じての課題の発見
 - ↓スタディーツアー等を通じての実践的学び
- 独自性を持った課題解決の方法の提案
 - ↓共同・共働、共生によるコラボレーション能力を身につけ実践する学び

↓発表等を通じてプレゼンテーション能力を身につけ、実践する学び

■学生が身につける力

本セミナーで学生が身につける力は、知識も技術も環境も急激に変化する二十一世紀の社会の中で、次々に起こる想定外の課題解決に対応可能な能力である。それは、「一時的に詰め込み、その後忘れてしまうような知識の習得」ではなく、「課題解決のため必要に応じていつでも活用できる知識の獲得」、「多様な人々と共同・共働して問題解決を図る能力」、「変化に対応して、様々なことを学び直す生涯学習能力」の獲得である。

学生たちがグローバルな視点を持って、地方であろうと世界であろうと、どこにいても生き抜いていける力を身につけるために、国内外の著名な教員を招聘し講義等を行ってもらい力を身につけてもらいたいと考えている。



細江のクラスでの Sarah Goretta氏による「Women in the Global Workplace」というタイトルでの講義、UTAS学生との交流授業をかねて



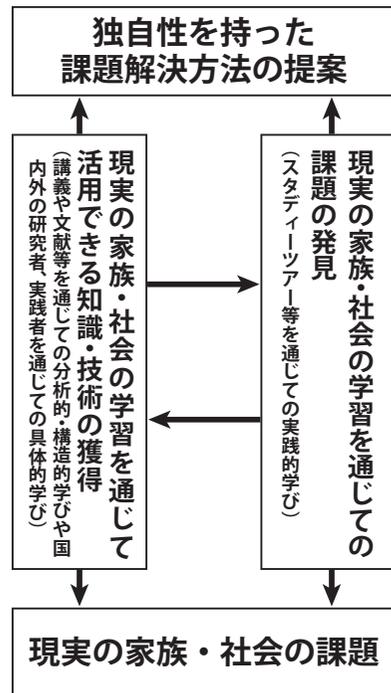
十日町へのスタディーツアー
(キャリア研究所とのコラボによるツアー)



細江の授業でのグローバル化に関する
Mimi先生の講義



実践者を支援する「ターン、Uターン」と関わる「小高い」
に関する福田稔氏の講義



〔注〕

DeSeCo は、「コンピテンシーを」「ある特定の文脈における複雑な要求 (demands) に対し、認知的・非認知的側面を含む心理―社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力」(Rychen & Salganik 2003: 43) と定義し、それを「ホリスティック・モデル」と呼んでいる。

〔参考文献〕

- Rychen, D. S. & Salganik, L. H. (Eds.) (2003) Key Competencies: For a Successful Life and a Well-Functioning Society. Hogrefe & Huber.
- OECD (2004) Learning for Tomorrow's World: First Results from PISA 2003. Paris: OECD.
- OECD (2005) The Definition and Selection of Key Competencies: Executive summary. OECD).
- OECD (2010) Strong Performers and Successful Reformers in Education: Lessons from PISA for the United States.
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyov/chukyov0/roushin/attach/133581.htm (2016.12.20 閲覧)
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyov/chukyov3/004/siryov/07092002/001/003.htm (2016.12.20 閲覧)
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyov/chukyov3/004/siryov/05111603/004.htm (2016.12.20 閲覧)



授業の紹介

心理学実験の授業～「認定心理士」資格科目

本学生活文化学科准教授 水野 いずみ

心理学実験の授業と「認定心理士」資格

二〇一六年度末に、生活文化学科生活文化専攻の四年生は卒業していきます。そして、二〇一七年度の春には、生活文化学科生活心理専攻の一期生が四年生になります。専攻名称は「生活文化専攻」「生活心理専攻」と異なりますが、どちらの学年も、心理学に関心のある学生たちが力を注いで取り組んだ科目の一つとして、心理学実験の授業があります。これは、「認定心理士」資格を取得するための必修科目です。「認定心理士」とは、心理学の基礎を学んだことを示す資格で、日本心理学会が認定しています。資格名称の中に「心理」とあるため、就職活動時や卒業後などに、大学で心理学の基礎を学んだことを示すことができます。したがって、学部・学科・専攻名などに「心理」の名称がないなか、地道に心理学の基礎を身につけるべく勉強してきた生活文化専攻の学生にとっては、特に必要とされていた資格といえます。二〇一四年度からは生活心理専攻がスタートしたので、専攻名に「心理」の名称が入り、大学で心理学の勉強をしてきたことが示しやすくなりましたが、生活

心理専攻のほとんどの学生は「認定心理士」資格を取得するべく、心理学実験の授業に取り組んでいます。

具体的な授業内容

心理学実験の授業について、「生活文化専攻」の学生たちは「心理学基礎実験1・2」（三年生前期・後期、週一コマ、二クラス制）、「生活心理専攻」の学生たちは「心理学実験・実習1・2」（二年生後期・三年生前期、週二コマ、一クラス制）を履修します。生活心理専攻スタートに伴う科目名称や開講期の変更などはあるものの、日本心理学会の認定資格科目ですので、授業内容に大きな変更はありません。筆者は、二〇一五年度まで「心理学基礎実験1・2」を、二〇一六年度からは「心理学実験・実習2」を担当しています。「心理学実験・実習2」では、



写真：
2016年3月卒業の生活文化学科4年生を対象とした、
資格の書類を確認する会の様子

面接・観察の代表的な手法や、社会的促進・印象形成といった社会心理学の実験・調査などについて、実習を行っています。そして、一年次の「心理学概説1・2」、二年次の「心理学演習1・2」「心理学研究法1・2」「心理学実験・実習1」など、それぞれの科目で積み重ねてきた勉強内容をふまえて行われています。

心理学実験の授業について、生活文化専攻の学生たちは週一コマで取り組んでいましたが、心理学的背景の解説・実施や分析方法に関する説明・実施・データ収集・分析・レポートによる報告を行わなければならないため、週一コマ九〇分では作業をほとんど終えられず、授業以外の時間帯に履修者どうしで集まって取り組んでいました。他の授業の時間割などとの兼ね合いもあり、履修者どうしで集まって作業をするうえで、時間調整に難しさが見られていました。二〇一四年度にスタートした生活心理専攻については、週二コマとすることで、授業時間内になるべく共同作業が必要なところを終えられるようになりました。それでも、各自での分析・レポート作成については、学生たちは授業時間外にも日々取り組んでいます。最近では、毎週のようにやってくるレポート提出締切前日に、LINEなどのSNSを通じて、リアルタイムで進捗状況をやりとりしながら、学生たちは励ましあっているという話も耳にします。





資格取得と卒業生の進路

前述のように、生活文化専攻の学生については、専攻名などに「心理」の記載はありませんが、「認定心理士」資格を取得するなど、心理学を勉強したいという学生が多くみられます。二〇一六年三月の生活文化専攻卒業生については、およそ三三％が「認定心理士」資格を申請しました。書類の内容を一緒に確認していると、一人ひとりの四年間が思い出され、「いろんなことがあったね」「こんなことがあったね」と話しました。書類の確認が終わった時に、「やったー!!!」と歓声を上げる学生もいました。

また、二〇一六年三月の生活文化専攻の卒業生については、「製造・販売」(二二％)、「金融・証券・保険」(二二％)、「運輸・サービス」(一七％)、「保育・教育・医療・福祉」(一七％)、「情報・通信」(一四％)、「建設・不動産」(五％)、「進学」(三％)などの進路がみられます。これまで多くの卒業生が「認定心理士」資格を取得しています。卒業生と話すとき、大変なことがあっても、地道にこつこつと取り組んだ学生生活を思い出し、がんばろうと思えるようです。

心理学を学んだ生活文化学科の卒業生は、高校の先生や、東日本大震災のボランティアを実践する音楽療法士など、さまざまな分野で活躍しています。その様子は、『心理学ワールド』(日本心理学会)の記事「[こ](#)こでも活いきてる心理学」にて紹介さ

れています(生徒の夢を叶えるために――一人ひとりを理解し、信頼関係を築く)』『心理学ワールド』71号、『様々な視点をもつて――音楽療法士として』『心理学ワールド』72号)。また、生活文化学科での心理学の学びの特徴を、『心理学ワールド』71号の記事「心理学キャンパスデイズ」にて知ることができます。

心理学実験の授業は、心理学の基礎を学んだことを示す資格である「認定心理士」を取得するのであれば、必ず履修しなければならぬ科目です。その意味では、どこの心理系学科・専攻にもある、とても平凡な科目だといえるでしょう。しかし、その授業を通じて得られた大学時代の思い出や、苦労をともにした仲間との関係、卒業後の様々な進路は、学生一人ひとりの個性をよく表しています。冒頭に述べたように、二〇一六年度末に、生活文化専攻の四年生は卒業し、二〇一七年度の春には、生活心理専攻の一期生が四年生になります。専攻名称は異なりますが、心理学の勉強を志す学生たちは、懸命に心理学実験の授業に取り組んでいます。



研究紹介

保育実践家

ヴィヴィアン・G・ペイリー (Vivian G. Paley) とその保育に関する研究

本学生活文化学科教授 松田 純子

◆ペイリーの生涯

筆者が保育実践家ヴィヴィアン・G・ペイリー (Vivian G. Paley) と出会ったのは、アメリカ留学中、一冊の本を通してだった。“Boys & girls: Superheroes in the doll corner”¹⁾ (「男の子と女の子〜人形コーナーのスーパーヒーローたち〜」) という親しみやすいタイトルのその本は、保育の中で日常的に見られる遊びの場面から、すでに幼児期に表れる「男らしさ」と「女らしさ」をテーマとして書かれたもので、筆者の拙い英語力でも読んでいくうちにすっかり夢中にさせられる知的な刺激と面白さがありました。ペイリーは、自らの保育を物語のように語ってみせる語り部としても稀有な存在です。彼女の三十七年間にも及ぶ興味深い保育実践と思索の記録は、独特の語り (narrative) の様式で、十三冊の著書にまとめられています。筆者が出会ったのは、その中の一冊でした。ペイリーの飽くなき子どもへの興味と物語 (ファンタジー) の力により、彼女の紡ぎ出す保育の思索はひときわ異彩を放ち、多くの保育者のみならず、研究者の関心をも掻き立てます。

◆ペイリーのプロフィール

ペイリーは、一九二九年にユダヤ系移民の子としてアメリカ合衆国シカゴに生まれました。カレッジ卒業後、教師として公立小学校に勤め、その後シカゴ大学実験学校の幼稚園に迎えられています。彼女は、長年にわたる自身の保育の実践と思索の中から、子どもによる物語作り (storytelling) とその物語の劇表現 (story acting) という活動を生み出し、それを自らの保育カリキュラムの中心的な活動として位置づけました。彼女の長年にわたる保育の記録 (物語) は他の保育者たちにも共有され、興味深い対話を生みます。ペイリーは、現役を引退後もアメリカ内外の保育現場に招かれ、独自の実践の紹介と保育者らとの対話を続け、多くの保育者のメンターとして現在に至っています。

◆子どもと物語 (ファンタジー) の関係

ペイリーの保育を語る前に、子どもと物語 (ファンタジー) の関係についてふれておく必要があるでしょう。子どもが物語の世界を理解しはじめるのは、私たち大人が考える以上に早い時期からのようです。心理学者 J・ブルーナーは、子どもが物語を語ったり理解したりするのに十分な言葉を持つ以前から、「いないいないばあ」のような自分に向けられる「非言語的なドラマ」を理解して喜ぶことなどを例に挙げ、「ほとんど人生の最初の時点から、一種のナラティブ的、または劇場的な早熟性



が存在していることを示唆している」²⁾と述べています。ペイリーもまた“Amazingly, children are born knowing how to put every thought and feeling into story form.”³⁾(驚くことに、子どもたちは生まれながらにして、どんな考えや感情も物語の形にすることを知っている)と記しています。合理的思考を身につける以前の子どもは、理解しがたい現実世界の問題を一つの物語の中に置き、子どもなりに「意味づけ」や「関係づけ」を試みます。言い換えれば、物語は、理解しがたい現実世界の問題に対して、子どもにも納得できる一まとまりの意味と脈絡を与えるのです。また、子ども自身が物語(ファンタジー)を創造し表現することは、自らのアイデンティティや他者との絆を形成していくことを容易にするとペイリーは考えました。個々の子どもの物語世界は、他者(仲間や保育者)の物語世界とつながり、生活を共にする集団(community)の物語としても紡がれていく可能性を秘めています。

◆ペイリーの保育実践

ペイリーの保育の実践の中心にあるのは「遊び」です。特に幼児期に盛んに見られる空想遊び(fantasy play)が重要な鍵となります。空想遊び(fantasy play)は、子どもが主体的に取り組むことのできる自由な活動であり、子どもの内面世界が「物語」という形で自然に表現されやすいことにペイリーは気づきます。彼女は、子どもが空想遊び(fantasy play)の中で自由に創造し

表現する物語(ファンタジー)に現れる成長のモチーフに着目し、それらの物語の背後にある意味(子どもなりの論理)をていねいに読み解こうとします。

その空想遊び(fantasy play)にペイリー独自のシンブルな形式を与えたものが「物語作りと劇表現(storytelling and story acting)」活動です。この活動を通して、言語化された子どもの内面世界(物語)が保育室の「舞台(stage)」で表現されることとなります。ペイリーは、この「物語作りと劇表現(storytelling and story acting)」活動を、空想遊び(fantasy play)の延長として、日常的に行う読み聞かせと同様に、自らの保育カリキュラムの中心的な活動として位置づけるようになりました(図1)。「物語作りと劇表現(storytelling and story acting)」のやり方は、次のようにシンブルなものです。

①毎日の自由な活動の時間に、希望する子どもが個々に保育者とテーブルにつき、自分が作った物語を語る。まわりの子ども



図1 物語(ファンタジー)をめぐる遊びと活動

もたちも自由に聞き、コメントすることができる。

② 保育者は子どもが語る物語をノートに書き取る。必要があれば質問をして物語を整える。

③ 同じ日に、子どもたちは絨毯やテープで示された簡易な舞台 (stage) を囲んで集まり、そこで一人ひとりの

物語が演じられる(図2)。

④ 子どもは、物語の「語り手(作者)」、「演じ手」、「観客」のいずれかの役割で活動に参加する。語り手(作者)は、自ら演じることもあるが、演じないこともある。

⑤ 保育者は、ナレーター兼舞台監督の役割を務める。

ペイリーによれば、やり方は固定的ではなく、色々あってよく、物語も長いものである必要はなく、むしろあまり長くならないようにするという事です。

◆「物語作り劇表現

(storytelling and story acting)」の意味

心理学者コール (Michael Cole) は、ペイリーのこの活動を、子どもにとって“true extension of play”⁴⁾(真の遊びの延長)と

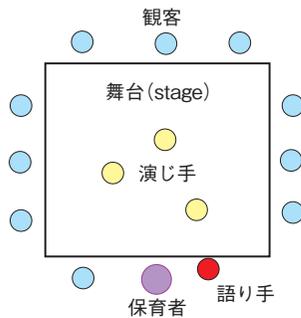


図2 劇表現 (story acting) 活動

呼んでいます。物語の劇化 (dramatization) においては、遊びと同じように、その構成や内容は子ども自身のコントロール下にあります。但し遊びと違って、言語化された物語を劇として演じることは、全く自然で自発的なことというわけではありません。しかし、自分や仲間が作った物語を、自分が仲間の前で演じたり、仲間が演じるのを見たりすることは、子どもにとっても興味ある活動に違いありません。人に語りたいたい(物語)があり、人が考えていること(物語)を知りたいという興味が尽きない限り、子どもにとってこの活動は、遊びと同様に必然性をもった魅力的な活動であり続けるのです。つまり「物語作りと劇表現 (storytelling and story acting)」は、子どもの自己表現(「語りたいたい」「なってみたい」と他者理解(「知りたい」「仲よくなりたい」)の両方の要求を満たすことができる装置とも考えられます。

ペイリー自身も、子どもたちが物語と一緒に演じることは「一緒に遊ぶ」ことと同じだと考えています。従って、一緒に演じることは、友情の証しであり、親密さを増す行為となるのです。またペイリーは、物語作り (storytelling) と劇表現 (story acting) を車の両輪のようなものとして捉えています。個の活動であると同時に共同の活動となる、この二つの活動が同日に行われることに意義があるとペイリーは考えているようです。

舞台 (stage) の設定は、子どもにとって分かりやすく特別な



時間・空間を用意します。ここでは、子どもが安心して自らの抱える課題やテーマを物語として試すことができるのです。個々の子どもが抱える課題やテーマは、当然個性がありませんが、継続したクラス活動として取り組む中では、普遍的な発達上のテーマが現れてくることもあります。例えば、頻繁に現れるのが、fantasy（非現実的な心象）、fairness（公平さ）、friendship（友情）とこう、ペイリーが「三つのF」と呼ぶテーマです。子どもたちは、これらのテーマが現れると、自分の言葉や知的な能力の限界まで熱心に議論をしようとするとペイリーは述べています⁵⁾。その様子は、彼女の著書の随所に描かれています。ペイリーの長年にわたる保育実践の中から得られたこのような知見は、幼児期の発達課題を考える上で大変興味深いことです。

◆ペイリーの保育実践から見えてくる 画期的な子ども理解と保育の方法

ペイリーの実践から生まれた「物語作りと劇表現 (storytelling and story acting)」活動は、一見たわいもない活動のようですが、画期的な子ども理解と保育の方法として注目されます。

ペイリーは、子どもの言動を分析する代わりに、子どもが語る物語（ファンタジー）をそのまますくい上げ、表現の舞台 (stage) を用意します。そして、子どもと共にその表現された物語を楽しみ、意味づけや関係づけをしながら理解しようとし

ます。その理解しようとする試み(問い)そのものが、ペイリーの保育を創っていきます。保育者にとって、子どもは常に保育という動態の中で、「育ちつつある者」として捉えていかなければなりません。保育者は、保育を行いながら子どもを理解し、子どもを理解しながら保育を実践しています。このように日々成長を続ける子どもに向き合う保育者にとって、ペイリーの「物語作りと劇表現 (storytelling and story acting)」は、まさに画期的な子ども理解の手法であり、同時に優れた保育の方法と言えるでしょう。もちろん、そこには保育者の深い理解が不可欠ですが。

「物語作りと劇表現 (storytelling and story acting)」は、一人ひとりの子どもの個性と具体性に対応しながら、集団の活動としても楽しく有意義で、日本においても、幼児期に相応しい子ども主体の「遊びを中心とした保育」を実現する大変有効な方法として、大きな可能性を持っていると筆者は考えています。

【参考文献】

- 1) Paley, Vivian Gussin. *Boys & girls: Superheroes in the doll corner*. Chicago: The University of Chicago Press, 1984.
- 2) ブルナー・J. 岡本夏木 (他) 訳 『ストーリーの心理学—法・文学・生をむすぶ—』ミネルヴァ書房、二〇〇七年、四十二頁
- 3) Paley, Vivian Gussin. *The boy who would be a helicopter : The uses of storytelling in the classroom*. Cambridge, Massachusetts, and London: Harvard University Press, 1990, p. 4.
- 4) Paley, Vivian Gussin. *Mollie is three: Growing up in school*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 1988 Paperback edition, p. xi.
- 5) D&D 資料 *Storytelling themes with Vivian Gussin Paley*. Ball State University.



研究紹介

幼児教育へと導いてくれたモンテッソーリ教育

本学生活文化学科教授 田中 正浩

私の研究対象のひとつは、イタリア出身の教育思想家で、教育実践家でもあるマリア・モンテッソーリ (Maria Montessori, 1870-1952) の教育論における理論的分析です。モンテッソーリは、「子どもの発見者」として知られるルソー (Jean-J. Rousseau, 1712-1778)、「スイス民衆教育の父」と親しまれたペスタロッチ (Johann H. Pestalozzi, 1746-1827)、「幼児教育の父」と呼ばれたフレーベル (Friedrich W. A. Froebel, 1782-1852) に連なる児童中心主義教育の系譜にあり、二十世紀に興った新教育運動では、デューイ (John Dewey, 1859-1952) やエレン・ケイ (Ellen K. S. Key, 1849-1926) とともにその一翼を担った人物です。



Maria Montessori



Casa dei Bambini

ローマのスラム街サン・ロレンツォに開設された (1906) 教育施設「子どもの家 (Casa dei Bambini)」での活動、そこで導き出された「モンテッソーリ・メソッド (教育法)」、考案された数々の教具については、今日においても広く世界に知られています。我国でも、モンテッソーリ・メソッドを部分的に導入している幼稚園・保育園が二千ほど、本格的に導入しているのは四百ほどあるとされています。

モンテッソーリは、ローマ大学で医学博士の学位を取得し、精神科医となります。その後、医学者から教育学者への転換を図り、再び同大学で教育学、実験心理学、人類学の研究に取り組みます。このような経歴と数多くの著作からは、独自の多様な視座で子どもの本質を捉えてきたことが窺えます。モンテッソーリは、子どもに対する客観的で精緻な行動観察と不断の教育実践によって「科学的教育学」を構築しました。科学的教育学とは、自然科学によって見出された普遍的な法則や理論を教育に適用するのではなく、既成概念にとらわれずに子どもを「生命の事実」として捉え、そこから教育の理論や実践を実証的に導き出すというものです。子どもを一つの「生命の事実」として客観的に捉えることを基礎に置いたモンテッソーリ教育



モンテッソーリ教具 (ピンクタワー、円柱さし)



には、その理論と実践において有効な普遍性が内包されていると考えられます。一方で、モンテッソーリという名を冠していることで特殊性を備えてもいます。その教育目的、内容、方法は、独自の子ども観、成長・発達観、教育観などを基底に構築されてきたわけですから当然です。

モンテッソーリの教育論は、要所に固有の用語・概念が用いられ、しかもそれらは多様な学問領域から摂取し、あるいは独自に創造しているため、その解釈は容易にというわけにはいきません。ときとしてモンテッソーリの叙述が独断的で整合性に欠けると見做され、あるいは誤解されることで、批判や論争がなされてきたことも事実です。「改革教育学者のなかでモンテッソーリほど賞賛と非難を浴びている者は他にない（ルドルフ・ラサーン (R. Lassahn, 1928)）」と言われる彼女の教育論を理解するには、理論的体系化に自覚的とは言い難い彼女の著作から、教育論の根幹をなす子ども観、成長・発達観などの特質を、つまり子どもを捉える彼女独自の視座を抽出、分析する作業が必要になります。このような作業によってモンテッソーリ教育の理論の体系化と実践の構造化をめざし、さらに今日的妥当性を検証し、現代化へと繋げていくことが研究内容となります。振り返れば、大学院を修了し、短期大学幼児教育学科で教えるはじめたとき、幼児教育との接点となり、導いてくれたのはモンテッソーリ教育でした。以来、研究対象とし、いまでも続い

ています。

いまひとつの研究対象は、我国の近現代における欧米教育思想の受容と初等教育思想の成立過程についてです。明治期、そして大正、昭和期には、欧米教育思想が輸入、受容されてきました。同時に、この期間は我国初等教育思想の発展的形成過程でもあります。これら教育思想形成過程について、この時代（期）に初等教育に関わり、活躍した人物たちの教育思想とその形成過程をもとに考究しています。まだ研究は緒に就いたばかりで、構想の段階で資料収集が主となっていますが、その一端を紙幅の許す限り記します。

明治初期、我国初の幼稚園、東京女子師範学校附属幼稚園（現、お茶の水女子大学附属幼稚園）が開園します。初代園長となる関信三は僧籍を持ち、キリスト教排斥運動に身を投じ謀者となった人物ですが、その残りの人生を幼児教育に捧げるに至った彼の教育思想形成の背景と要因はどのようなものであったのか。当時、主任保姆（幼稚園教諭の意）を務めたのはフレールのもとで幼児教育を学んだ松野クララ（クララ・チーテルマン）ですが、幼児教育界での彼女の教育思想的役割はどのように評価できるのか。やがて形式的なフレール主義教育に陥ることになる東京女子師範学校附属幼稚園を改革したのは、同校教授で園長となった倉橋惣三です。後に「日本のフレール」と称されたように、児童中心主義者として我国の幼児教育・保

「育界に多大な影響を与えた彼の教育思想の形成過程はどのようなものであったのか。モンテッソーリ教育をヨーロッパ留学中に見聞し、いち早く我国に紹介したことを含め、欧米の教育思想家たちとの出会いが倉橋に及ぼした影響についても関心があるところ です。」

私が住む東京府中市には広大な公園墓地多磨霊園があります。五十万もの御霊が眠る中、著名な人物も多くいます。幼児教育関連で記すならば、童謡作家北原白秋、童謡作曲家中山晋平、児童文学者巖谷小波^{いわやさなみ}、そして倉橋惣三^{くらはし}です。本学からもさほど遠くはなく、担当する「教育思想史」で話題にしたことから、受講生有志と倉橋の墓前に手を合わせにいつてきました。墓石の横には、「自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である。世にこんな楽しい心があるうか。」と刻まれた墓誌が立っています。「育ての心」を間近で見ながら、私も



墓誌「育ての心」

含め学生たちは、倉橋の生きた姿、生きた時代と出会えたような心もちになりました。ことを覚えていきます。倉橋は学生時代、内村鑑三の聖書研究会に通い、その教えに

傾倒し、ある意味精神的な支柱であったとされています。私たちは、倉橋の近くに眠るキリスト者内村鑑三にも出会うのです。児童研究の目的で四谷のスラム街にあった二葉幼稚園（後に二葉保育園）に通った倉橋は、同園園長の野口幽香^{ゆか}から幼児教育・保育について教えを受けます。野口幽香も同じく眠っています。アンデルセン童話やグリム童話を初めて我国に紹介し、誰もが馴染みのある「ふじの山」（あたまを雲の上に出し、四方の山を見おろして、…）などの作詞で知られる巖谷小波ですが、調べてみるとその幼少期に松野クララからドイツ語を教えてもらっていたというのです。期せずして、今日の幼児教育・保育の礎を築いてきた先人たち、その教育思想に影響を与えたであろう人々と出会う、このような経験も加わり、先人たちが織り成してきた教育思想を読み解くことに面白さを感じています。

近現代の初等教育の舞台は東京だけではありません。先に我国初の幼稚園を東京女子師範学校附属幼稚園と記しましたが、それ以前に京都に民間の幼稚園が開設されたと文献にはあります。明治期、我国初の学区制小学校も学制公布に先立ち、実は京都ではじまります。幼稚園の痕跡を求め、そして学区制小学校の起点となる地を確認しに、ここ三年、ゼミ合宿先を京都とし、京都学校歴史博物館に足を運んでいます。近い将来、これらについて報告できればと思っています。



研究紹介

顔をおぼえるのが得意な人・不得意な人の違いはどこから来るのか？

本学生活文化学科専任講師 作田 由衣子

私は主に感性の働きが人の知覚や認知に及ぼす影響を研究しています。人は、人物や絵画、匂い、音楽など様々な対象に対して、自動的・無意識的に「とげとげした」「温かみがある」「魅力的」など多彩で多感覚的な印象を感じることが出来ます。また、人の顔を見るときには、年齢や性別などの客観的情報の処理だけでなく、「優しそう」「信頼できそう」といったその人の内面に関わる印象についても、素早く無意識的に処理が行われます。そういった印象がどのように処理され、記憶の中でどのように保存されているのか、また、顔と顔以外の対象に対する印象の違いや共通性などについても関心があります。

ここでは、現在行っている研究の中から、顔をおぼえるときの視線パターンの分析についてご紹介します。

現在私が行っている研究の一つとして、人が特に意識的に顔をおぼえようとするときの視線パターンの分析についての共同研究があります。私は人の顔をおぼえるのがとても苦手なのですが、一度会っただけで顔をおぼえてしまう人や、変装していてもさえ同一人物と判断できるほど顔の認識能力が優れた人も

るようです。そのような、顔を見る能力の違いはどこから来るのでしょうか。顔を記憶するのが得意な人と不得意な人では、顔のどこに注目するのか、どのような視線の流れで顔を見るかが異なるのでしょうか？

日常生活の中で、人の顔を見るときは状況は様々です。明るい日の光の下で見えることも、やや暗い照明の下で見えることもあります。そのほかにも、化粧の仕方や体調、年齢による変化など、同じ人の顔であっても常に同じように見えるわけではなく、その時によって少しずつ見た目が変化するものです。それでも私たちは、ある程度程度の見た目の変化には惑わされず、同じ人物であると認識することが出来ます。表面的な見かけの情報だけの処理ではなく、きちんとその人物固有の情報を取り出せているためです(図1 Bruce & Young, 1986)。ただし、顔の認識

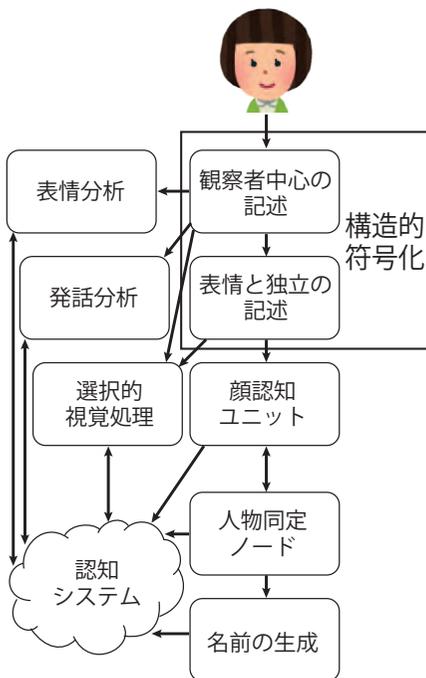


図1 Bruce & Young (1986) の顔認知モデル

能力には個人差があります。見た目が少しでも変化すると同一人物と認識できなくなってしまう人もおられるかもしれません。

私たちの研究グループでは、日常的に顔の認識能力が高い人は、多少の見た目の変化にとらわれず人物固有の情報を抽出できるため、顔の同定（見たことがあると正しく判断できる）の成績が高いのではないかと考えました。実験では、顔の再認が正確な人たちは、先に見せた顔画像の印象を変化させた画像に対しても同じ人物ととらえ、「見たことがある」と判断する割合が高いのではないかとこの予測を立てました。顔の記憶実験を行って記憶の正確さ（どこまでを同一人物とみなすか？）を測定するとともに、同時に視線パターンの分析も行いました。

実験では、実際の人物の顔写真ではなく、コンピュータ・グラフィックス（以下CG）で作成された顔画像を使用しました（図2）。CGなら顔の印象を自由に操作した画像を利用できるためと、肖像権の問題がないためです。アメリカのプリンストン大学で作成され、公開されているデータベース（Todorov & Oosterhof, 2011）から、二十六枚の画像を選んで使用しました。

実験の流れとしては、まず、参加者の方たちに十四名の顔画像をおぼえてもらい、その後テスト（再認課題）を行いました。テスト時には、おぼえたときと全く同一のターゲット

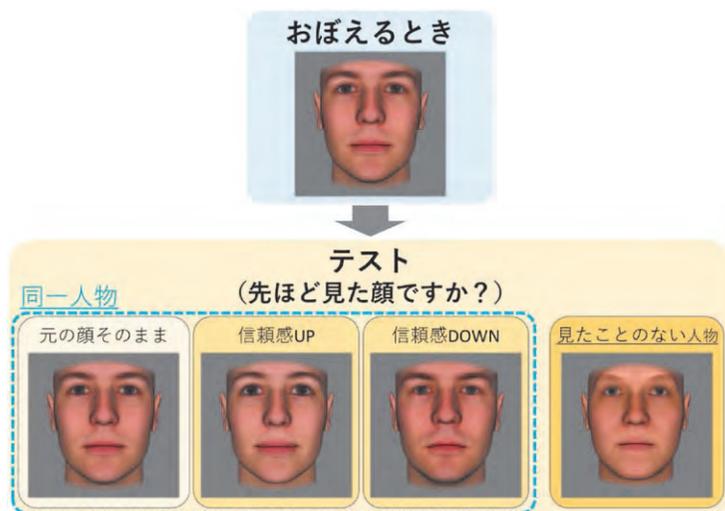


図2 使用した画像の例

人物六名、ターゲット四名の信頼感印象をわずかに変化させた画像八枚（一名につき信頼感を高めたものと低めたものそれぞれ一つずつ）、見たことのない人物四名をランダムに提示しました。おぼえたときとテストのときに、視線を計測できる装置（EyeLink CL）を使って顔画像に対する視線パターンを計測し



ました。目や鼻などの領域に対する停留時間の割合から、領域間で視線がどのように移動するか（遷移確率）を算出し、検討を行いました。

視線パターンについて分析したところ、記憶が得意な人とそうでない人で視線の動きに違いが見られました（図3）。顔の記憶が正確な人は、顔の左右にバランスよく視線を向けるのに

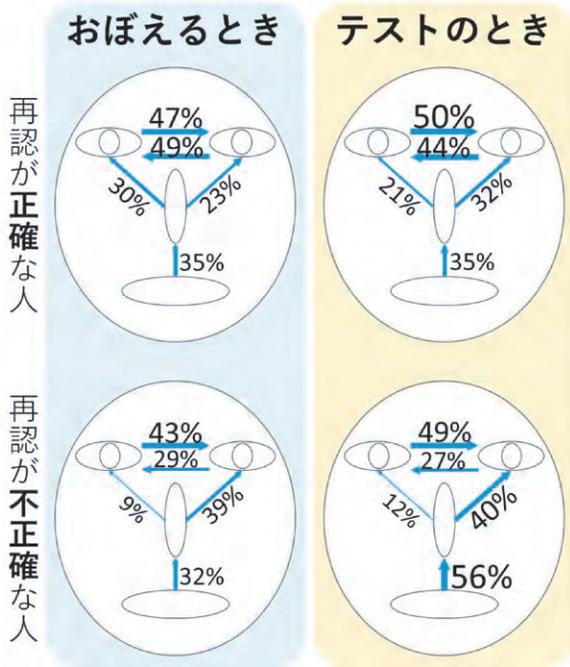


図3 領域間の視線の遷移確率（模式図）

対して、顔の記憶が不正確な人は、顔の右側に偏って視線を向けている傾向が見られました。

また、顔の記憶が不正確な人は、おぼえたときのままの顔画像を見せても、同じ人物であると回答する割合が比較的低く、むしろ少し印象の異なる画像に対して「見たことがある」と回答しがちであるという結果が得られました。

以上の研究成果の一部は、日本認知心理学会第十四回大会、第二十一回日本顔学会大会、The 6th International Conference on Memory（国際記憶学会）で発表されました。このような研究を積み重ねることにより、なぜ顔の記憶が得意な人とそうでない人がいるのか、記憶のメカニズムに全く新しい方向から迫ることができると考えられます。今後はさらにデータを追加していくとともに、印象と記憶の関係について検討を深める予定です。

〔参考文献〕

作田田衣子・山田涼子・稲葉善典・赤松茂(二〇一六)「顔をおぼえるのが上手い人・下手な人 再認実験と視線計測からのアプローチ」日本認知心理学会第十四回大会
 作田田衣子・山田涼子・羽田桃子・赤松茂(二〇一六)「顔の記憶が得意な人の方略を視線計測から探る」第二十一回日本顔学会大会
 Sakuta, Y., Yamada, R., Inaba, Y., & Akamatsu, S. (2016). People can identify a face even if the person's facial impressions have changed. *International Conference on Memory (ICOM-6)*
 Todorov, A., & Oosterhof, N. N. (2011). Modeling social perception of faces. *Signal Processing Magazine, IEEE*, 28, 117-122.
 (データベースは以下URL参照 <http://lab.princeton.edu/databases/>)



就活体験記

公立保育園・幼稚園への就職活動について

生活文化学科 幼児保育専攻 四年 戸高 優

私が公立受験を意識し始めたのは一年生の頃です。もともと地元である日野市での就職を考えていましたが、その中でも仕事を長く続けられる、かつ働きやすい環境が整っている市役所に就職をしたいと考えるようになりました。私は日野市役所が第一志望で、日野市の試験対策・就活しか経験をしていないので、勉強内容が偏っていると思いますが、少しでも参考になればと思います。

日野市役所に保育士として入るためには、筆記、実技、個人面接、集団面接の四つの試験に合格しなければなりません。筆記試験の勉強を本格的に始めたのは、三年生の四月からです。授業の空コマは全て勉強時間に費やし、この時期はサークルやバイトよりも勉強を優先していました。私は特に、優先順位をつけて勉強をすることを心がけました。幼児保育専攻の四年生は、実習、卒論、就活の三つを同時進行で乗り越える必要があります。そのため、いつ何をしておくべきなのか、前もってやっておいた方がよいことは何かなどを考える必要があります。そうすることで、筆記試験の勉強にどのくらい時間を取れるのかが分かります。私は六〜八月が就活、六月と

九月が実習だったので、一番時間のかかる卒業論文に早めに取り掛かることにして、実習の一カ月前には指導案を実習先に提出できるように準備をしていました。その中で丸一日勉強ができる日を見つけ、筆記試験対策をしていました。筆記は、苦手な分野も完璧にしようとするのではなく、得意分野で確実に点が取れるように、出題数の多い数的・判断処理をメインに勉強しました。この分野は、いかに早く正確に解くかが鍵だと思います。私は、基礎問題集を六回ほど繰り返し返してから、難易度レベルの様々な問題を解くようにしました。なるべく多くの問題に触れて、解いたことのある問題を増やすようにしておく、本番の試験でも問題に対してすぐに解法がひらめくと思います。国語は、趣味の読書で試験対策しようと気楽に考えていたので、対策としての勉強はあまりしませんでした。日野市の基礎能力試験は、四十五分で七十問を解くという時間との勝負だったので、国語の対策としては、活字を早く読む力を身につけておく和良好的ではないかと思えます。(ちなみに社会・理科の分野は出題されませんでした。) 専門試験の対策も同様に、基礎問題集を繰り返し解き、知識を蓄えてから、インターネットに載っていた国家試験を解いていました。国家試験はとても難しいですが、分からなかった人名や単語は調べて、基礎問題集に書き加えていました。実技と面接は、ゼミの先生やキャリアアセンターの方に対策をして頂いたり、既に日野市に就職をさ



れていた先輩方にアドバイスを頂いたりしました。試験当日は、ありのままの自分で臨むことを意識したので、面接解答を丸暗記することは避けました。面接解答は、試験官に伝えたいことをキーワードで頭に入れておくと思いいます。

就活は、絶対受かるといふ強い気持ちと、自信をもって臨むことが大切だと思います。私は、友人から貰った応援の手紙をお守り代わりにして試験会場に持っていきました。私が自信をもって試験に臨めたのは、努力したと自分で実感するほどの勉強があったからだと思います。皆さんも、体調を第一に考えつつ、就活に全力で挑んでください。



就活体験記

公立小学校の採用試験に向けての取り組み

生活文化学科 幼児保育専攻 四年 佐藤 彩加

今年度、私が教員採用試験を受けてみて、来年度の採用試験を受けてみようと思っている皆さんに伝えたいことを三つ述べたいと思います。

一つ目は自分が受験したい都道府県を早くから決定しておくことです。私は地元の茨城と東京とでずっと迷っていました。願書提出のぎりぎりまで悩みました。何故決めておいた方がいいと言ったかという、採用試験は都道府県ごとに内容が異なるからです。茨城は実技試験があるのに対して、東京は筆記試験と面接しかありません。対策の仕方も変わってきます。迷っていた私は、どちらに決めてもいいように勉強しようと最初は思っていました。迷いがあるために集中して勉強できませんでした。ですから、できるだけ早めに決めて対策できるようにしてください。受験する都道府県を迷っている人は、試験科目が少ないから、楽だからという理由で決めないことをお勧めします。たとえ大変だとしても、自分が働きたいところはどこなのかをシンプルに考えて決めるようにすると、勉強の意欲も湧きますし、「面接などで「この都道府県で先生をやりたい」という思いが伝わりやすいと思います。

二つ目は、自分が教師になった時に大切にしたいことを決めておくことです。小論文や面接の時でも、自分が大切にしたいことを必ず取り入れて伝えるようにすると、統一性も出て、意思が伝わりやすくなると思います。自分自身も言いたいことが決まっていると気持ちになります。私は「けじめのある生活」と「安全で安心して生活できる学級づくり」を自分の信念として貫き通しました。面接でも小論文でも、この大切にしたいことを必ず取り入れるようにしました。自分が実習で感じたことや自分の信念として基に、子どもたちと生活する上で大切にしたいことを考えてみてください。

三つ目は、過去問に頼りすぎないことです。過去問はあく

まるで一度出題されている過去のものです。過去問を使うのはもちろん悪いことはありません。採用試験は過去問通りにはならないこともあると頭に入れておいてほしいと思います。数年分を一気に確認することで、その都道府県の出題傾向がわかります。私のおすすめの過去問の使い方としては、傾向を確認し、解いてみることで自分の今の状況とやるべきところを見つけることです。それから自分が選んだ問題集で覚えるべきところを覚えて、苦手を無くしていくという方法です。今年の採用試験は出題傾向が変わった都道府県が多かったようです。本番で出題の仕方が変わっただけで戸惑ってしまい、自分の力を出せなかったということにならないようにしてください。

都道府県によって試験問題が違うこともあり、採用試験の勉強中は孤独になりやすいですが、友達と一緒に勉強したり話をすることや、環境を変えることも必要です。何気ない会話から気づくことや、大切なことが得られる場合もあります。意識すれば集団討論の練習にもなります。幼児保育専攻幼小コースの私たちは、幼稚園実習が終わるとあつという間に採用試験の時期がやってきます。私はスタートダッシュが遅れてしまい、とても苦勞しました。まだいいやと思わずに、先生や友達と協力しながら限られた時間の中で自分がやるべきことを見極めて、試験に臨んでください！ 何事も楽しんだもの勝ちです。つらい勉強も楽しみながら、時にはリフレッシュも忘れないでください！



就活体験記

就職活動体験記

生活文化学科生活文化専攻四年 片岡 彩花

私は就職活動として埼玉県教員採用試験を受験しました。校種は高等学校で教科は家庭です。日程から一般企業の就職活動との両立は難しいと考え、教員採用試験のみとすることにしました。どうしても学校の先生になりたかったため、今回落ちましたら私立学校や臨時採用、非常勤講師の連絡を三月まで待つと決めていました。試験等の日程は以下の通りでした。

- | | |
|-------------|------------------------------|
| 4月 | 願書提出 |
| 5月13日 | 教育実習打ち合わせ |
| 5月20日 | 授業見学 |
| 5月31日～6月17日 | 教育実習 |
| 7月10日 | 一次試験（一般教養・教職教養・専門教養／マークシート） |
| 7月28日 | 合格発表 |
| 8月6日 | 二次試験（専門教養／筆記、集団討論、適性検査、総合読解） |
| 7日 | 二次試験（個人面接） |
| 19日 | 二次試験（集団面接） |
| 10月4日 | 合格発表 |



教育実習は三週間でしたが打ち合わせ後から指導案の作成を始めたものの、とても手こずったため、実際は一カ月以上試験のための勉強はできませんでした。このことを逆算し、三年の夏休みから勉強を始めました！と言えれば良かったのですが、真剣に始めたのは二月頃だったと思います。教職課程で実施された対策講座には十一月から参加していましたが、それまであまり勉強していなかった私にとってはレベルが高く、ただ参加していただけた気がします。二月から講座が教科ごとに分かれ、同じ目標を持つ仲間と、熱血指導の先生の六人で勉強を始めたことでスイッチが入りました。二月から八月の二次試験が終わるまでの半年間、この仲間でたくさん勉強をしました。

それぞれ受けた県や校種が異なったため、お互いの過去問を集めたオリジナルの問題集を先生が作ってください、それをみんなで解いたり、教科書や資料を読み込んだりしました。一人では気がつかなかったことや、心が折れそうなこともありましたが、楽しく満遍なく勉強することができました。覚えることはたくさんあったし、周りの友人がどんどん内定をもらっている姿を見ると焦りも生まれました、正直辛かったです。しかし同じ目標を持つ仲間と勉強することでライバル心が生まれたり、励ましあったり、昼休みに問題を出し合ったり、とても充実していました。春休みの最後と一次試験の後にご飯を食べに行っ

また、もう一つ辛かったことが、一次試験の発表と二次試験の間の時間のなさでした。余裕を持って勉強を始められなかった私は、一次試験の対策だけでいっぱいでした。そのため面接、討論、小論文、筆記試験対策を、二次試験までの一週間程でしなければなりませんでした。おしゃべりは大好きですが、改まって文章を書いたり自分の気持ちを伝えたりすることが苦手なため、いざ面接！と先生の前に座っても志望動機さえ答えられず、沈黙することしかできませんでした。

対策としては面接、討論ともに、一昨年の教員採用試験を受けた先生から、その年の面接でどのようなことを聞かれ、どのように答えたかをまとめたものを教育実習時に頂いたので、そこに出ている質問や参考書を中心に紙に文章で答えを書き出し、何度も何度も読んで自分のものにするようにしました。それでも前々日の対策の最後まで、いつも練習していた質問と違うことを聞かれたり、突っ込まれたりすると、頭の中が真っ白になってしまっていました。焦りと悔しさで逃げたい気持ちでいっぱいでしたが、二次試験を受ける人はみんな時間がないんだと最後は気持ち切り替え、試験に挑みました。学校へ行く電車の中では二次試験対策用にお借りした教科書を見る、学校では小論文と面接用の答えの添削をしてもらい練習をする、帰ったら小論文や面接の答えを作る、寝る前には作った答えを読む、体調に気を使う。あの一週間は、大学生活の中で一番必

死だったかもしれません。

採用試験を経験して、人との繋がりの大切さを実感することが多くありました。一緒に勉強した仲間はもちろん、熱心な先生にご指導いただいたこと、教育実習先の校長先生、担当教諭、資料を貸してくださった先生にも恵まれました。家で一人で勉強しては絶対に合格することはなかったと思います。集団討論の試験監督が実習校の校長先生であると気づいた時に、もつと実習時にアピールをしておけば、と後悔もしました。何がどこで繋がるかわかりません。

そして、生活文化学科の学生でも家庭科教諭として合格することができたということを強調しておきたいと思います。合格するまで、衣食住どれも専門ではないし、教育学部でもないため、他の学科と比べて不利だ、無理だと思っていました。しかし、教職教養の心理学や家族分野等、今までこの学科で頑張ってきたから悩まずに自信を持って解けた問題もたくさんありました。私は四年間、「家庭科にも教職にも関係なさそうなのになんでそれ履修するの」と友達に言われるような授業をいくつも履修してきました。ただ少し興味があったから履修しただけでしたが、今振り返ってみると、それらの興味が私の基礎を作ったのかなとも思います。

最後に、自分は自分です。私は他の人の動きや反応が気になつてしまい、それが自分の首を絞めることになつてしまいま

した。これはどのように就職活動をするにも同じだと思えます。他の人が何を言おうとも、どのような行動をとっていても、最後まで自分の意志を貫いて頑張ってください。



就活体験記

就職活動体験記

生活文化学科 生活文化専攻 四年 澁谷 友宇子

私は大学四年生の六月に、エンジンメーカーの事務系総合職で内々定をいただきました。就職活動は自分の思うようにいかないことが多く、三月に情報が解禁されて内々定に至るまでの約四カ月間は何度も心が折れそうになりました。志望業界・志望職種から内定を得ることができた今、就職活動は「縁」と「運」で決まるものだと思っています。就職活動の講座で、「縁」という言葉を耳にすることがありました。企業とのお縁があったからこそ内定をいただけるのだと思いますが、タイミングのように「運」の要素も非常に強いと私は感じました。

私が就職活動を意識したのは、大学三年生の夏でした。家具メーカーの法人営業に同行する五日間のインターンシップと、キャリアセンターが主催する一日の企業見学会に参加しました。就職活動のことはあまり分かっていませんでしたが、友人がインターンシップに応募するという話を聞いて、早いうちから準



備をしようという気持ちになりました。インターンシップでは他大学の学生と交流することができて、たくさん刺激を受けました。

二〇一七年卒の就活生は、三月から会社説明会が始まり、エントリーシートや履歴書の提出があり、六月に試験や面接の選考開始という短期決戦のスケジュールだと言われていました。しかし、実際にこのスケジュールで採用活動を行っている企業は少なく、五月に内々定を出している企業も多くあったように感じました。

私は、土日休みで比較的離職率が低いことから、B to Bメーカーと専門商社を中心に選考へ進みました。結婚や出産後も、子育てと両立させて仕事を続けたいと考えているので、女性が働きやすい職場環境であるかどうかに着目していました。エンジンメーカーを就職先として決めた理由は、会社の規模や勤務地、福利厚生、そして事務職という仕事内容などが理想に近く、人事や面接でお会いした社員の方の雰囲気や対応が良かったからです。必ずしも、会社説明会の時点で志望度が高かったわけではなかったのですが、選考が進むにつれ、この会社で働きたいという気持ちが強くなりました。数ある企業の中から私がこの会社と出会えたことは何かのご縁であり、少ない採用枠から私を選んでいただけたことは運が良かったからだと思います。

そして、後輩に伝えたいことが三つあります。

一つ目は、就職活動の講座やSPIの対策講座には積極的に参加することです。それはモチベーションの向上につながるからです。しかし、参加することに満足して、自分は就職活動をしているという気分になりやすくなります。講座で学んだことを行動に移すことが大切です。また、学内の講座はたくさん種類があるので、積極的に受講すると良いと思います。キャリアセンターでは、進路の相談、履歴書の添削、面接練習などをしてくださるので、悩んだらキャリアセンターに行くことをお勧めします。

二つ目は、失敗を次に活かすことです。これは私の就職活動における反省点でもあります。私は、一次面接で不合格になる場合が多かったのですが、落ち込むばかりで振り返りをきちんとしていませんでした。事前に面接練習をして、よく聞かれる質問にはすぐ答えられるように準備することが必要です。面接後は、何を聞かれたか忘れないようにメモし、失敗したことを繰り返し返さないようにすることが大切だと思います。

三つ目は、就職活動は自分のペースで！ということです。私は、一次面接に落ち続けて持ち駒がどんどん減り焦っている頃に、友人は最終面接を控えていると聞き、なぜ自分はこんなにうまくいかないのだろうかと落ち込んだことがありました。早い時期に何社も内定を獲得した人は優秀で能力が高い人かも

しませんが、就職先として最終的に選べるのは一社だけです。自分自身が納得のいく企業から内定をいただくことができれば、内定が決まった時期や内定を獲得した数は関係ないと思います。ときには息抜きとして遊ぶ時間も作り、他人と比較しすぎずに自分のペースで進んでいくことが何よりも大切だと思います。

就職活動には、これをすれば必ずうまくいくということはありません。正解がなく、先が見えないので、私は常に不安な気持ちでいっぱいでした。内定を獲得している友人が増えて、周囲と自分を比べてしまったことで、一日何もできないくらい落ち込み、就職できないのではないかとさえ思うこともありました。就職活動を振り返ると、苦しい日々が続きましたが、その分大きく成長できたと思っています。私の体験記を読んで、少しでも後輩の皆さんの参考になったら嬉しく思います。自分が納得できる企業、これから頑張っていきたいと思える企業に、皆さんが内定できることを祈っています。

説明会から内々定まで

* プレエントリー 約120社

業界は絞らず、説明会で選考に進むか判断

* 説明会 約40社
(合同企業説明会 3回参加)



* 選考 28社

★志望度の高い業界
《B to Bメーカー》
《専門商社》

+

他に選考を受けた業界
《金融》
《IT系》

* 内々定 2社



学科の活動

① フレッシュマンキャンプ

生活文化学科では、毎年四月に「フレッシュマンキャンプ」を実施しています。フレッシュマンキャンプとは、新入生を対象に一泊二日のキャンプを通して、入学後の大学生活の不安や悩みを解消したり、グループ活動で交流を広げ、思い出をつくる恒例行事です。そこで得た経験をもとに、仲間との交友関係を築き、四年間の様々な活動の発展を目指します。

今年も、四月二十三、二十四日に八王子セミナーハウスにて開催されました。当日は新入生、二、四年生のキャンプリーダー、教員助手が参加し、たくさんの人と交流することができました。一日目は、

教員を交えてグループごとに自己紹介や将来の夢を語り合い、グループイベントでは動画作成を行いました。夜は先輩を囲みながら談笑会を開き、先輩と後輩のつながりを深めました。



二日目は、前日に撮影した動画の上映会を行い、学生らしい斬新なアイデアに教員達も驚かされました。また、グループ対抗の一筆絵大会などレクリエーションも開催され、大いに盛り上がりました。





学科の活動

② ひんぎゃくまつり

毎年十月に開催される日野市『手をつなごう・こどもまつり』に、幼児保育専攻の一〜三年生が参加しております。

一年生は事前に児童館の方に教えていただいたヒノダンスの披露、二年生は竹馬やコマ等の伝統遊びのブースを担当、三年生は各グループで遊びの内容を考えてブースを出しております。

今年度は当日の朝から雨が降ってしまったため、小学校の体育館で開催されました。

さかなつりブースでは、学生が作った色とりどりの魚を見て、目をキラキラさせた興味津々の子どもたちが集まっていました。

やさいスタンプのブースでは、野菜などにスタンプするとお花のように見えたり、予想外の形になったりすることに喜ぶ子ども





もたちの様子が見られました。

射的ブースでは、男の子たちが大盛り上がりで楽しんでいました。小さなお子さんや自分で輪ゴム鉄砲のセットができない子には、学生が優しく教えてあげていました。

ボーリングブースでは、ピンが倒れると学生たちが「すごいね!」「上手!」と盛り上げてくれるので、倒した子もとても嬉しそうでした。

今回は雨天のため三年生しか参加することができませんでしたが、先輩として一・二年生の分も一生懸命盛り上げてくれました。学生たちも楽しそうに子どもたちと関わっておりました。



学科の活動

③ 心理学プロムナード

十一月十二日、十三日に日野キャンパスで第六十回常磐祭が開催されました。生活文化学科では、各ゼミの紹介のパネル展示・松田ゼミのダンボールランドの企画・井口ゼミの子ども食育劇・心理学プロムナードを行いました。

今回は心理学プロムナードについてご紹介します。心理学プロムナードでは水野ゼミ・作田ゼミ・塚原ゼミの生活心理専攻の学生が中心となり、企画と運営を行っています。準備段階で

は専門の方をお呼びして、心理機器の詳しいレクチャーをしていただきました。授業で心理機器について学んではいますが、専門の方のお話を聞くことができ、学生たちはより理解が深まったのではないのでしょうか。

常磐祭当日は来場者の方々に、嘘発見器や、逆さメガネ、鏡映描写などを体験していただき、心理学について身近に感じてもらいました。予想以上にたくさんの方にお越しいただき、大盛況で終えることができました。



学科の活動

④ サンドイッチパーティー

学年や専攻を超えて学生同士が親睦を深めることを目的として、十一月十五日、生活文化学科主催でサンドイッチパーティーを催しました。当日は一〜四年生の学生に加え、教員や助手も参加して交流を図りました。好きな具材を選んで楽しそうにサンドイッチを作る様子や、デザートを片手に笑顔で会話をしている学生の姿がとても印象的で、終始明るい声の響く賑やかな会となりました。また、二年生は次年度のゼミ選択を行う時期であったため、三・四年生の先輩からゼミの様子を熱心に聞いている学生も多く見受けられました。お昼休みの短い時間ではありましたが、今後の学生生活を一層充実させる貴重な機会となったのではないのでしょうか。



実践女子大学 生活文化フォーラム 第21号

平成29年3月22日発行

編集者 生活科学部生活文化学科

発行者 (ホームページ <https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/seibun/>)

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1

TEL 042-585-8918

FAX 042-585-8919

実践女子大学ホームページ <http://www.jissen.ac.jp>

〔編集企画〕協力・印刷所

日野テクニカルサービス株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3-1-1

TEL 042-586-5062

FAX 042-586-8944

表紙イラスト

幼児保育専攻 2年 高橋 奈津実
幼児保育専攻 2年 古川 由彩
生活心理専攻 2年 渡辺 佐奈子
生活心理専攻 2年 渡辺 静香

実践女子大学 生活科学部生活文化学科
〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1
TEL 042-585-8918 FAX 042-585-8919
<https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/seibun/>

